

第25回

木のある暮らし

だつ たん そ しゃ かい
脱炭素社会
SDGs の実現を
かんが える きつ かけ に!

木のある暮らし
作文コンクール



にゅう せん
入選
さく ひん しゅう
作品集

■ 主催：  一般社団法人 日本木造住宅産業協会

■ 共催：  住宅金融支援機構
Japan Housing Finance Agency

■ 後援：国土交通省・文部科学省・農林水産省・環境省・外務省・朝日学生新聞社

ごあいさつ

一般社団法人日本木造住宅産業協会主催の作文コンクールは、おかげさまで、今年二十五回目を迎えました。小学生の皆さんを対象に、日常生活に身近な「木のある暮らし」をテーマに実施しており、作文への取組を通じて木や森、住まいや街、さらには地球環境にも興味を抱いてほしいという願いが込められています。

今年も、全国各地の小学校や特別支援学校、海外五カ国の日本人学校、会員企業等を通じて、合計五七六五作品の応募をいただきました。多くの素晴らしい作品に支えられ、この作品集を発刊することができました。これもひとえに、ご指導をいただいた先生方はじめ、保護者、関係者の皆様のご支援があったことと感謝しており、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

近年、木の良さが見直され、住宅だけでなく中大規模建築物にも木材が利用されるようになりました。「木のある暮らし」は多岐にわたり、応募作品の中には単に木の持つ効果・効能だけでなく、人や社会に与える影響をつづった作品が増えてきました。家具や玩具等さまざまな木製品との思い出や林業体験など、幅広い題材を小学生ならではの純粋な視点と観察力で表現されており、心を打たれました。どの作品も個性にあふれ、原稿用紙に向かって一生懸命取り組む皆さんの姿が思い浮かびました。審査員の先生方も大変ご苦勞されたのではないかと思います。この作品集で紹介できるのは全作品の一部ですが、皆さんには「木のある暮らし」の素晴らしいさを感じていただけるのではないかと思います。あらためて応募いただいた皆さんに心から感謝と敬意を表します。

多くの作品で触れられているように、木は人にやさしい素材です。また、再生可能な資源であり、その成長過程では地球温暖化の要因となる二酸化炭素を吸収してくれます。森の仕組みをしっかりと理解し、適切に木を伐り、使い、植える、そして育てるということを繰り返し行えば、地球環境の保全と持続可能な社会を目指す、SDGｓの実現につながります。この作文コンクールを通して、木や森、環境について考え、興味を持ち続けていただきたいと思います。

今を生きる私たちは、人がいつまでも木や自然に感謝し寄り添って生きる未来を作っていかなければなりません。当協会は、木の住まいを通じて地球環境を保全し、「木のある暮らし」を次世代に伝えていくことを目指していきます。

最後になりますが、本コンクールにご後援いただきました国土交通省、文部科学省、農林水産省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社、そして応募いただいた皆さん、支えてくださった保護者、教育委員会をはじめとする学校関係の方々、コンクール実施にご尽力いただいた全ての関係者の皆様に重ねて御礼申し上げます。

令和四年十月吉日

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

会長 市川 晃





木のあそびくらし





受賞者一覧



国土交通大臣賞

低学年の部

家づくりは木のリレー

茨城県 大和田 悠真さん

高学年の部

時が創り出すもの

千葉県 杉野 愛梨さん

文部科学大臣賞

低学年の部

木ってすごいな

宮城県 昆 光葵さん

高学年の部

あーちゃんの桜の木

福井県 田中 琴菜さん



農林水産大臣賞

低学年の部

アイスのぼうってどんな木

千葉県 中村 瑠里さん

高学年の部

木の七変化

鹿児島県 小田原 志竜さん

環境大臣賞

低学年の部

木の良いところ

千葉県 馬場 望さん

高学年の部

ぼくのチャージ

静岡県 佐藤 迪洋さん



外務大臣賞

低学年の部

みんなやさしく

マレーシア 吉田 直太郎さん

高学年の部

みんながくらしやすい社会へ

マレーシア 吉田 桜子さん



住宅金融支援機構理事長賞

低学年の部

しゃべる木のおうち

静岡県 袴田 あいさん

高学年の部

神様の木に出会って

兵庫県 斎藤 瑠乃さん



日本木造住宅産業協会会長賞



低学年の部

やさしいじいちゃんち

愛媛県 武田 英里さん

高学年の部

祖父の眠る棺

千葉県 泉 奏花さん

朝日小学生新聞賞

低学年の部

さびしそうな木

滋賀県 山下 晃生さん

高学年の部

僕の周りは素敵な木に溢れている。

京都府 田中 伊織さん

審査員特別賞



低学年の部

木と森と

宮城県 角岡 こころさん

高学年の部

木のすばらしさと生きるたくましさ

エジプト・アラブ共和国 筱 茉莉紗さん

北海道ブロック

エゾマツ賞 低学年の部

バルコニーの木

北海道 野原 琉太さん

エゾマツ賞 高学年の部

ぼくの自慢の木の家

北海道 前田 健志さん

東北ブロック

ケヤキ賞 低学年の部

森の木のプレゼント

福島県 水野谷 良太さん

サクランボ賞 高学年の部

我が家のシンボルツリー

山形県 戸村 杏莉さん

関東ブロック

ケヤキ賞 低学年の部

木をめぐる二つの気持ち

埼玉県 福井 遥さん

マキ賞 高学年の部

木の香りいっぱいの学校

千葉県 清水 冬和子さん

北信越ブロック

マツ賞 低学年の部

たいせつな木

福井県 高橋 結さん

シラカバ賞 高学年の部

木と共に生きていく

長野県 名取 優寿希さん

甲・静岡ブロック

モクセイ賞 低学年の部

会えなくてもつながっている

静岡県 高橋 陽馬さん

モクセイ賞 高学年の部

「自然の恵みの清沢和紙」

静岡県 赤堀 塔子さん

中部ブロック

イチイ賞 低学年の部

大すきな木のいえ

岐阜県 松浦 衣那さん

ハナノキ賞 高学年の部

間伐体験で学んだこと

愛知県 内藤 綾乃さん

四国ブロック

マツ賞

低学年の部

木で作られたおままごとセット

愛媛県 柚山 琴美さん

やまもも賞

高学年の部

「私の好きな場所」

徳島県 城福 悠々香さん

近畿ブロック

もみじ賞

低学年の部

「クロガネモチのき」

滋賀県 寺内 湊都さん

クスノキ賞

高学年の部

家族をつなぐ木

兵庫県 宮崎 純大さん

中国・九州・沖縄ブロック

カイクズ・クスノキ賞

低学年の部

木にかこまれたわたし

鹿児島県 盤若 よつばさん

ブンゴウメ賞

高学年の部

三千年の時を超えて

大分県 釘宮 里帆さん

団体の部

最優秀団体賞

沖縄県 沖縄市立美東小学校

優秀団体賞

千葉県 国府台女子学院小学部
群馬県 高崎市立東部小学校
大阪府 富田林市立喜志小学校
福島県 矢吹町立矢吹小学校

特別賞

木の発芽と成長の様子を知ろう 福岡県 江隈 粋心さん

森を守る 鳥取県 西川 洋夢さん

木は大切 鳥取県 藤原 蓮さん



佳 作

低学年の部

木のかげのふしぎ

中華人民共和国 上田 実織 さん

木にこめられたねがい

熊本県 緒方 莉月 さん

大切にまもられているログハウス

千葉県 兼岡 史典 さん

大せつな木

静岡県 神谷 友梨子 さん

わたしは水まきたい

鹿児島県 北野 結華 さん

家の音

鹿児島県 平 結愛 さん

百年前の家

大阪府 高田 茉里花 さん

もりのじんじゃ

千葉県 段野 陽葵 さん

わたしの大切なつみ木

鹿児島県 中村 沙友梨 さん

おばあちゃんのトトロの木

奈良県 中本 凜 さん

おとうさんはいいにおい

鹿児島県 福嶋 心ノ花 さん

わたしのじいじ

福島県 古川 琴葉 さん

山の木をむだなく使う

福井県 松平 瑞也 さん

森になったおじいちゃんの家

兵庫県 松本 結 さん

高学年の部

木のおもちや

千葉県 青山 結葵 さん

屋久島の地杉の家

鹿児島県 片山 紗江 さん

「森を守る、木の手当て」

神奈川県 小牧 愛子 さん

職人さんの心意気

宮城県 佐々木 璃都 さん

木せいバットがなくなる？

愛媛県 武田 直起 さん

じいちゃんとの思い出の香り

岐阜県 田中 琉凰 さん

人は木を守り、木は人を守る

滋賀県 谷澤 あかり さん

リビングの古い机

千葉県 筒井 美唯子 さん

家族をつなぐミズメザクラ

徳島県 中川 結奏 さん

お地蔵様と大きな木

和歌山県 中村 冴輝子 さん

時を刻んだイス

千葉県 行木 まり さん

学校の春めき桜

神奈川県 新倉 将希 さん

三千年の大楠と私の祖母の年輪

佐賀県 馬場崎 心 さん

無題

ドイツ連邦共和国 丸山 結愛 さん

大きく育てクヌギの木

静岡県 横道 弘樹 さん





茨城県 大和田 悠真さん

家づくりは木のリレー

家づくりは木のリレー

大和田 悠真

「だいじょうぶ。ゆっくりのぼっておいで。」
と、うりまうさんの声で、ぼくははしごをに
ぎる手に力をこめた。そして、
「ーだんずつのぼっていけばこわくないよ。」
と、そつと、下にいる弟に声をかけた。二か
いまでのびたはしごをのぼっていくと、上と
う式の、つるとかめの絵がかかっているかぎ

りが近くに見えた。板の上ですわると、とな
りのじいじとばあばの家がよく見える。あせ
をかいたけれど、庭からの風で気持ちがいい。
「おふろのにおいがする。」

と、弟がお父さんに言った。木のにおいがぼ
くたちをつつんだ。そこには、「ぼくの木」を
ノレーンで二かいに運ばれていたのだ。

きょ年の秋、せ、計事お所の人たちといっ
し、に、ぼくの住んでいる近くの山へ、木の
ぼっさい体験に行った。山にのぼる間に、木

を育てている人のあん内で、森林を長い年月
をかけて育てていることや、計画的に切り出
すこと、それを材料として使うことなどいろ
いろなことを教えてもらった。そして、ぼく
は、じりれい百三年になるヒノキに出会った。
手を広げてのびしても、かがえきれない太さ
と、空にえんとつみたいになっすぐにのびる
ヒノキ。お父さんがチェーンソーのひもをブ
ーンと引いて、大きな音を立てながら切っ
ていった。ゆっくり木がななめになっ、ズツ

シーンと地ひびきがした。弟と切りかぎの上
に立った時、おふろのにおいがした。

「木は生きているんだよ。それを大事に使わ
せてもらおうね。」

と、お母さんが言った。それから二か月して、
家でくでせい材所に行った。お父さんが切っ
たヒノキが丸太になっていた。せつ計しの岩
瀬さんが、

「この木で、家づくが木を読んだり、勉強し
たりできるつくえをつくるよ。」

と、話してくれた。そして、見たこともない
大きなまぎりのきがい、ぼくたちの木が
せい材されるところを見た。「どんなつくえ
になるんだろう」とワクワクしてきた。

その時のおい、「ぼくの木」だ。親方の合
図でぼくたちは、神様にあいさつをした。

ぼくの家は、木の家だ。百年以上前に木を
植えた人、山で木を育てた人、木を切って運
ぶ人、せい材する人、それをノミでけずり組
み立てる大工さん、たくさんの人が一本の木

をリレーしている。こんどは、ぼくの番だ。
ぼくにできることは何だろう。この前、自

然探検サークルでホタルを見た。豊かな森か
ら流れるきれいな川にホタルが住んでいる。

ぼくは住んでいる常陸太田市には豊かな自然
がすぐ近くにある。森をよく知り、木を大切
に使うことがぼくの役割だと思う。

ぼくの夢はせつ計しだ。ヒノキのつくえで
たくさん勉強をして、木の家をつくってみた
い。そして木のにおいのする町をつくりたい。





千葉県 杉野 愛梨さん

時が創り出すもの

時が創り出すもの

杉野 愛梨

「ジリジリと照り付ける太陽、蝉の鳴き立てる声。今私は、世界一古い木造建築で有名な法隆寺の五重塔の真下に立っている。見上げるとすっかりとした青空に白い雲がところどころに浮かんでいる。五重に重なる軒の部分にせり出し、時間が深み込んだような深みのある茶色が、空色との差をより際立たせている。千三百年以上前、飛鳥時代の人々がこの同じ場所から見上げていた。そう思うと時空旅行をしているような、そんな気分になった。母の友人に大工さんがいる。武家屋敷など古建築の技術を学んだ経験を持つ彼は、のみや鉋など道具のお世話が好き。そんな大工さんに母の実家や我が家もお世話になった。木にも人間と同様に個性があるんだ。太い木、細い木、曲がった木、真っ直ぐに伸びている木。木の性格を知り、その最もふさ

わしい場所に活かしてあげるとだよ。」

そう言って、曾祖母や、祖母の思い出に残る家の大事な柱を、可能な限り残す形で建ててくれたのだ。

ザリ、ザリ――。

いつでも使えるように研がれているのみが木の上をすべる。私の為に小さいシーソーを作ってくれた。木の削りかすの香りが残るその端。ここで、余り木を載せて遊ぶ私。木の優しい触り心地と大工さんの柔らかな声を今でも覚えている。

こんな面白い話がある。家の柱に棟上げの日付や「米一俵〇銭、日本酒一升〇銭」など当時の物価や「あとには任せたぞ」など思いを書き残すというものだ。ちょっととした粋な計算を、長い年月を経て別の大工さんが見つけるのだ。当時の大工さん達の、家や木、そして住む人への思いが垣間見える。実は、私達の家にも書き残してくれている。

入学する時、私は母に傘を買ってもらった

雨が降るのを待ち望んでいた程に気に入っていた傘。ところが、皆が大人びた傘に変えた頃、周りと違うことが恥ずかしく思い、急に取り残されている様で、使うことを止めてしまった。傘への気持ちは変わっていないのに、個性を殺さず癖を生かす。人も木も育て方活かし方は同じ――。法隆寺を長年支えた宮大工の方の言葉だ。面白いと思うこと、悲しくなるタイミングも皆違う。同じでなくともいいのだ。良い物を作るには時間がかかる。

かくくりやくり、木と同じ様に私も育ち、自信を持って個性を活かせる場所を見つけたいと改めて思った。

曾祖母や祖母の思い出の柱には、何が記録されたのか秘密のまま、今も家を守り続けている。時間は心を創り出す。私は、しまい込んでいたピンクの傘をもう一度出した。

ゴーン……

午後二時を知らせる鐘が、法隆寺の境内に響く。少しだけ暑さを忘れた気がした。



宮城県 昆 光葵さん

木ってすごいな

木ってすごいな

昆 光葵

わたしは、ひがし日本大しんさいのひさい地の子ともたちのためにできた音楽教しつでバイオリンをならっています。

「この樂きは、千七百六十年に作られました。この言ばは、はじめてバイオリンの先生に会ったときに、先生が自分の樂きを見せながら話していた言ばです。そして、

「この樂きは、イタリヤで作られ、イタリヤの人がつかい、つぎに、スイスにわたり、スイスの人がつかい、そして、日本にわたり、わたしが高校生のときにきょうとの樂きやさんで出会いました。それから四十年近くつかっています。」

わたしは、先生のバイオリンが、何百年もいろいろな国の人につかわれていると知っておどろきました。

「大じにつかうと、バイオリンは千年くらい

つかえるそうですよ。」

という話も聞いて、わたしはさらにおどろきました。そして、木は長もちするのだとわかりました。

わたしは、家に帰ってから、家の中を歩き木でできたものをさがしてみました。ベン強づくえやいす、テーブル、食きだな、タンスなど、たくさんありました。そして、何年、何十年と長くつかわれているものばかりでした。

二かいにあるママのべん強づくえは、ママが小学生になるときに、ママのなくなったおじいちゃんとおばあちゃんが買ってくれたもので、三十年い上つかいつづけているそうです。

金どくはさびたり、プラスチックはわれたりしてしまうことがあるけれど、木は長もちです。ごいかなと思いました。

また、バイオリンの先生は、

「この樂きは、ゆい一む二のものです。かわ

りになるものはありません。この樂きをなくしたら、バイオリンリストをやめるかもしれません。それぐらい大じなものです。」

とも話していました。

木でできたものには、あたたかみがあり、同じ色で同じ木目のものは一つもありません。一つ一つがとくべつなもので、その分、あいじょうがわくのだと思います。

わたしがつかっているバイオリンは、大さかの人がつかっていたもので、ひがし日本大しんさいのひさい地の子ともたちのためにつかってほしいとゆずずてくれたのだそうです。わたしは、その人に会ったら、こうつたえたいです。

「バイオリンをゆずずてくれて、ありがとうございます。何十年、何百年先もつかってくださいますように、あいじょうをもつて、大切に大じにつかっています。わたしが上手にひけるようになったら、ぜひ聞きにきてくださいね。」



福井県 田中 琴菜さん

あーちゃんの桜の木

あーちゃんの桜の木
田中 琴菜
「あと一年早ければな。」
私はバの中でそうつぶやいた。
私の家には、たくさんの花がさいている庭がある。そこには、背の低い木も何本か植えてある。そのうちの二本は桜の木だ。この木や花は、あーちゃんが育てていた。あーちゃん、私の祖母だ。あーちゃんは、今年の三月になくなった。祖母は、毎日毎日庭に行き、木や花の世話をしていた。夏の暑い日は、朝と夕方に水やりをしていた。台風が来るときには、枝をひもでしばり、木や花を守っていた。そのおかげで、庭の木はほとんど大きくなっていた。
福井県は、毎年雪が多い。その雪から木を守るのも大切なことだ。桜の木一本は、その雪にも負けず、毎年こいびんクのきれいな桜をさかせた。まんれでかわいい花だ。毎年春休みに、あーちゃんと兄と私はまじから

お花見をやっていた。ウッドデッキにすわり、お昼ごはんに手まきずしとやき鳥を食べる。「おうち花見」それが私の春休みの楽しみだった。その日は、特別な感じがしてわくわくした。
そしてもう一本の桜の木もぐんぐん成長していたが、雪がかぶさってしまい、その重みで毎年枝が折れてしまっていた。春になると、その桜の木を見ながら、「今年もさいてないね」とあーちゃんと話していた。あーちゃんは、少しさけしそうだ。た。そう言いながら杖を支えるためにひもでしばり、そえ木をしたりして大切に育てていた。
そんなあーちゃんは去年の夏、がんとしてしまった。病院にいらした時もあーちゃん、庭の木を心配し、家に帰った時にはそばに行き、何かをしていらした。そして三月になくなった。四月、あーちゃん、二本の桜はどちらも満開だった。一本はいつ

ものようにこいびんクのかわいい花をさかせた。もう一本はうすいびんクのきれいな花をたくさんさかせた。私は父と、その桜を見ていた。父は、「あーちゃんがさかせたのかな」と私に言った。私もそう思った。でも、心の底からよろこばなかった。よろこばなかった。私はあーちゃんと並んで見たかった。だから、「あーちゃん、お花見をしたかった。」
「あと一年早ければな。」
私はバの中でそうつぶやいた。あと一年早くさいたらあーちゃんと「きれいだね」と言っていたようにこいびんクのに。
今、畑や庭の木の世話などは、父が行っている。あーちゃんの木たちを父が守っているように感じる。でも父もとしをとって、桜を守れなくなる時がくるかもしれない。私があーちゃん、父とつないできた桜を守ろうと思う。あーちゃんが空から私の家と分かるように。



千葉県 中村 瑠里さん

アイスのぼうつってどんな木

アイスのぼうつってどんな木

「あたりかな？はすれかな？」

中村 瑠里

これはわたくしがアイスをたべるとき、いつも
こころの中で思っていることです。わたしはアイ
スがとても好きです。いえのれいとうこには
アイスがかならずあります。とくに、サイダー
あじのぼうアイスがすきで、たべ終わった
ときにぼうにぶってくるくじがきはいつもワク
ワクします。「きょうははすれちゃ、たいてい
のけ、かを見て、わたしはいつもがっかり
しながらアイスのぼうをゴミばこにすてます。
あたりまえのように、かんたんにすてられ
てしまうアイスのぼう。たくさんの人たちが
アイスをたべているから、きっとアイスのぼ
うもたくさんすてられているのだろうと思
いました。あるとき、わたしはふとぎもんに思
いました。このアイスのぼうは、いったいど
んな木だろう、どこでつくられているのだろ

う。わたしはふしぎに思っ、おかあさんに
きいてみました。

「アイスのぼうは、しらかばという木からつ
くられているよ。」

「今はほとんどが中ごくでつくられているそ
うよ」とおしえてくれました。むかし、ほ
かいどうへりょこうに行ったとき、しらかば
の木を見たことがあります。木のはだが白く
て、とてもすきな木でした。そんなしらか
ばの木がアイスのぼうになるなんて、わたし

はとてもおどろきました。しらかばの木をつ
かうりゆうは、木のおいがすくなくて、あ
いがしないから、だそつです。

「アイスのためにせかい中の木が切られて
いたら、森はどんどんなくなってしまうので
はないだろうか？」わたしはしんぱいになりまし
た。わたしがまいにちアイスをたべていたら、
木もどんどん切りたおされてしまうかもしれ
ない。かぞくみんなでしらべてみると、あた
らしいは、けんがありました。アイスのぼう

や、つまようじ、わりばしなどは、かんばつ
ざいという木がつかわれていることをしりま
した。かんばつとは、森をけんこうなまじょう
たいにするため、いろいろな木を切ることで
そのときに切った木を、かんばつざいという
そうです。

森をけんこうにするために切った木を、む
だにせずさいりょうしている。アイスのぼう
のためだけに木を切りたおしているわけでは
なかったことをしり、わたしはほっとしまし

た。木を大切にして、おだを出さずにりよう
すること、き、とせかい中の森をもっと生
き生きとせいちようできるだろうと思います。
すてられてしまうアイスのぼうから、たくさ
んのちしきをもらいました。アイスをたべる
ときは、森の木のことを思い浮かべてみよう
と思いました。





鹿児島県 小田原 志竜さん

木の七変化

木の七変化

小田原 志竜

まず、大きい木を両わきに置いて、真ん中に細くてもえやすいえだを入れる。その上にスギの葉を置いてから、細いえだを置く。これは、ぼくがお風呂をあがす時の火おこしのやり方だ。

ぼくのおじいちゃんの家は、木でお風呂をわかすまき風呂だ。遊びに行つた時には、だれがお風呂をわかすかで兄弟げんかになるほど、お風呂わかしは人気がある。すぐ近くには山があるので、そこでみんなといっしょにたき物を集めるのも、宝探しみたいですが、すごく楽しい。

「あった。あった。あそこにもあった。」と、すぐに両手に持てなくなるほど木はすぐに集まる。その中でもスギの葉は、よくもえるので、ぼくの一おしだ。

マッチでスギに火をつけて、細いえだに火がうつっていけばもう安心だ。両わきの大さ

な木まで火がつくの、ぼくは見守る。パチパチと音をたててもえている様子をジーッと見ている時間がぼくは好きだ。

「よか湯がげんいゃ。」と、気持ちよさそうな声で、おじいちゃんは教えてくれる。

たまには、

「なんまいだあ。なんまいだあ。」

と、なんぶつととなえる時もある。この時は熱さをがまんして入っている時なので、たく

のをやめて空気を閉じる。ほのおがおさまったら次の楽しみが始まりだ。あみの上のせた魚をおばあちゃんが火の上にのせて焼き魚を作る。えんとつか分けるけむりと共においしいにおいにつばをぐつと飲みこむ。空気がうから魚のやける様子をのぞいているとけむりが目にしみて魚が泳いで見える。

「魚が焼けたよ。」

というおばあちゃんの声は、庭に全員集合の合図になっている。おにぎりをかた手に、え

んとつか分けるけむりのにおいをかぎながらいつもは食べない魚のほねまで食べてしまう。それほど、お風呂の残り火で焼く魚は、かくづつにおいしい。そして、まだまだ木の活やくは続く。灰になれば、その灰汁を使いこんにゃくや、五月に食べるあく巻き作りに使われる。どちらともぼくは大好きで、灰に感じやしたい。これで木の活やくは終わりかと思いきや、おばあちゃんの知えぐろが、あと二つある。灰を畑にまくと、ふ料になる事とこげてしまったなびに、灰をつけて洗えばきれいになる事だ。

このように木は、宝探し、お風呂をわかす、おじいちゃんを喜ばす。焼き魚、あく巻き、こんにゃくができる。あと、こげても取ってくれる。なんですごい。これが木の七変化だ。ぼくは、うが山を見上げた。「そうだ。木を使う事はかりしていいのかな。」と思った。これからは、木を守るために、自分にできる事を考えていきたい。



千葉県 馬場 望さん

木の良いところ

木の良いところ

「すごいなあ。木を使って、いろいろな物を作ることができる。」
馬場 望

これは、わたしが祖父と一緒に「千葉県立房総のむら」に行ったときに、おはし作りを体験して思ったことです。

「房総のむら」は、江戸時代後期から明治時代初期の房総の町並みやくらしを再現した場所です。そして、そのころの伝統的な生活や物づくりを体験することができます。

わたしは、おはし作りをするのが初めてだったので、とてもワクワクしました。ノコギリで切った細い木をカンナでけずり、形を整えます。そして、紙やすりで木の表面をなめらかにしたら完成です。おはしを作るのは、大変でしたが、細い木からおはしができたので、すごいと思いました。でき上がったおはしを祖父に見せると、祖父は、

「おじいちゃんか子どものころは、家やおふろやおけも木でできていたよ。今より木でできていた物が多かったなあ。」

と、言っていました。「房総のむら」の町は祖父が子どものころよりも木を使った物や道具がたくさんあることに気がきました。たとえば、農家の家には、農作業に使う道具やうす、遊び道具がありました。また、武家屋敷には、調理道具やねん料となるまきがたくさんあり、ほとんどの物が木でできていたのです。

「房総のむら」に行った日は、とても暑かったけれど、昔の家に入ると、風通しがよく、すずしかったです。

これに対して、わたしの身のまわりには、プラスチックや金属からできた物が多いです。また、わたしの家は、鉄で補強されたコンクリートでできています。風通しがよいとは言えず、エアコンを付けないと、暑いです。

このようなことから、木は、いろいろな物に作り変えることができたり、家もすずしい

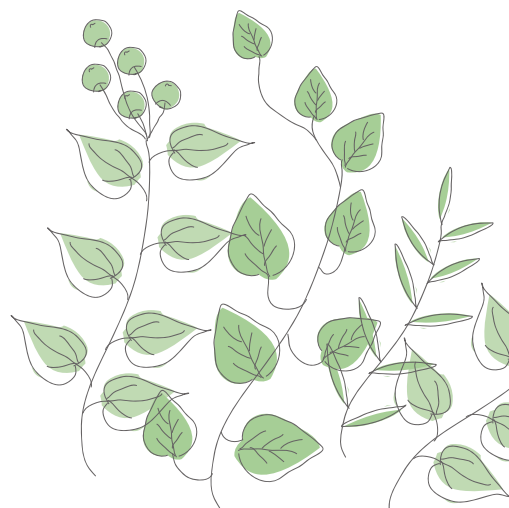
ので、とても力を感じました。そして、木のもっと良いところを知りたいなりました。

調べてみると、プラスチックや鉄は、再利用はできません。でも、木は再利用もできるし、使った分量だけ植えて育てれば、再び作ることができるということが分かりました。他に、木は人間がはい出する二酸化炭素をすって、人間が必要な酸素を作り出してくれます。これらの木の良いところは、今、

問題となっている地球温暖化を進ませないような役割をしてくれそうです。

このようなことから、木は、わたしたちが生きていく上でとても大切な存在だと思いました。木を使わないと、古くなって、本来の役割をはたせなくなるということも知りま

した。だから、木でできたものを生活に取り入れたらして、木を上手に使えるような社会になってほしいと思いました。





静岡県 佐藤 迪洋さん

ぼくのチャージ

ぼくのチャージ

佐藤 迪洋

ぼくは歴史が大好きで、文化財を訪ね歩くの
のめり込みだ。中でも首里城を訪れた時の感
動は忘れない。日本の他のどこにもない、琉
球独特の文化がそこにはあった。長い休みが
できると毎日のように見学に出かけた。でも
三年前、首里城は燃えてしまった。炎に包ま
れる首里城を見てとても信じられなかった。
悲しさとくやしさをなみだか止まらなかつた。
「再建はコンクリートで」という声があつた。
さんおが、た。火災による消失を防ぎたいと
いう気持ちにはぼくにもある。でも首里城がた
だ建物として残ればそれでいいのだろうか？
ぼくは、文化もふくめて残してこそ、文化
財の意味があると考えている。琉球では木の文化
が育まれてきた。アイヌを使つた琉球楽器や
ユシを使った三線など、木を使つた様々な伝
統工芸品がある。そして首里城をはじめ木造
赤瓦の家が建てられていた。実際にぼくが訪れ

た伝統家屋はどれも木造で、風通しが良く、
ガラッとしてすごしやすい。ホテルはコ
ンクリートでエアコンが必須だったから、沖
縄の環境に調和した「木の建物」に魅力を感じ
た。高温多湿の気候だからこそ、吸放湿性
のある木材が使われてきたのだ。木造である
というのは、琉球の気候や文化そのものだ。
だから首里城をコンクリートにしてしまえば、
形だけの文化財になってしまうと思ふ。
結局木で復元という方向にはなつたが、今
度は木材の確保が難しい事が問題になつた。
沖縄では、らんばつや戦争で森が焼かれ、復
元に必要なチャージがほとんどなくなつてし
まつた。森を守る事は文化財を守る事にもな
つていたのだ。前回の復元では台湾の木を使
つていたそうだが、今は輸出禁止で頼れない。
チャージについて色々調べていて、おどろ
いた事がある。チャージは方言で、イヌマキ
の事だったからだ。イヌマキは、今ぼくが住
んでいるいわ田ではとても身近な木だ。海に

面したいわ田は風が強く、風雪から守るため
昔からこの家でイヌマキを植えてきた。小
学校にも中学校にも、イヌマキは必おある。
神社にも公園にもあつて、よく木に登つたり
イヌマキの実を食べて遊んだりしてきた。い
わ田にある奈良時代の史跡にも大きなイヌマ
キがある。琉球王国が栄えていた時代にもあ
つたかもしれない。ぼくは許可をもらつて、
この種をもらつて帰つた。百個の種は、芽が
出なかつたり枯れてしまつて、五本にまで減
つてしまつた。毎日水をあげ、冬にはまたた
かい部屋で大切に育てた。そんなぼくのチャ
ージも今年で四年目、六cmにまで成長した。
首里城に入れる木にするには、数百年かかる
そうだが、だからぼくが生きていくうちはまだ
使えないだろう。それでも、木を育てる事は
とても大切な事。ぼくのチャージは、次か、
そのまた次の修復の時に使われるのだ。大好
きな首里城と、琉球の心と文化を守るために
これからチャージを大切に育てていきたい。



みんなやさしく

よし田 なお太ろう
パイヤ、コゴナツ、ドリアン、スター
フルーツ、バナナ。

食べにくると先生が言っていました。

ばくのすむ家の近くにも木がたくさんあり
 ます。一番多いのはヤシの木です。ヤシの木
 にも、たくさんのしゅるいがあることをマレ
 ーシアにきてはじめてしりました。マレーシ
 アは一年中あついですが、大きなはっぱをひ
 ろげた木の葉はすずしくてほっとします。

吉田直太朗さん

なか、
たけど、
ジャ
ング
ルに
はた
くさ
んの
ど

うぶつがすんでゐることが、分かりました。
ボルネオとこのジヤングルには、たくさんのお
どろぶつがゐることをあとでぶんぐ、おしよ
てくねました。ぼくがすぎなオランウータン
もボルネオとこの生きものです。だけど、今
ジヤングルがどんなに小さくなつてゐること
とおとうさんから聞きました。

切り
たり
もやし
たり
して
いる
そう
です

木ははぐたちになべるものや、すすしいが
け、^け「^け気もちのいい空気をあたえてくれます。
どうぶつにはすみかをおたえます。木はみん
なにやさしいです。にんげんもどつぶつと木
が大好きです。ぼくたちは木にやさしくてぎ
るのがな。人間たちが木を切ったりきやした
りすることやどつぶつたちはどう思ふ」
のかな。

でも、たゞ、やさしくしてあげたいとぼくは、思います。





マレーシア 吉田 桜子さん

みんながくらしやすい社会へ

みんながくらしやすい社会へ

「今日もくも、てる。」

吉田 さくらこ

私の住むマレーシアでは、季節によって隣の国のインドネシアから、汚れた空気が流れてきて、「ヘイズ」とよばれる大気汚染が起きます。ヘイズの時期は教室の目立つところに赤、黄色の看板がおかれ、赤の日は、外で活動できません。ひどい時には休校になります。

インドネシアで行われている「焼畑農業」が、ヘイズの原因の一つというのを知りました。私は、隣の国から流れてくる煙で、関係のない私達が外で遊べなくなったり、休校になるなんてとても迷惑だと思いました。

夏休みに家族と行、たボルネオ島の山の中、でガイドさんが、

「この近くの熱帯雨林も焼畑農業やパームヤシの農園を作るために木がたくさんきられた」ということを教えてくれました。なぜこんな

に迷惑ばかりかける農業をするのだろうか？と気になり調べた結果、焼畑農業は本来悪いことだけではなく、お金のかからない持続可能な農業ですが、人口が急激にふえたので、自然のはかいと木の成長のバランスがくずれているのを知りました。また、マレーシアやインドネシアでは利益のためにパーム油を作っていることも知りました。そしてその安くて便利なパーム油を進んで輸入している国は私の国、日本でした。

私はボルネオ島で、空に届きそうにまっすぐ生える力強い木、木に巻き付いて不思議な物に成長するラタン、すいすいと近くを飛ぶ色鮮やかな蝶やトンボ、虫を誘い、とかし、自分の栄養分にする食虫植物を見ました。食中植物をコップ代わりにして水を飲むサルの話はおもしろく、夜明けにい、せいに鳴き出す鳥たちの合唱にはおどろきました。熱帯雨林の奥深くには私の知らない生き物がたくさん住んでいるのでしょ、う。

たくさん動物植物が生きている熱帯雨林を人間の都合だけで切、ていいのではありません。そのために動物達の大切な家を奪うのは、戦争と同じことのように思います。自分達が得をするために必要以上に自然を、わし動物達を追い出すこと、遠くの国の人のことを考えずに木を燃やし続けること、そうやって作られた製品を安く便利だからと、買って買うことも、全て自分達だけが良ければ良いという人間の勝手な考えです。人間は生きるために

食べなくてはならないし、生活のためにお金をかせがなくてはならない。だけど、一人一人が相手のことも考え、マッスつ物を大切にしたり、お互いを思いやり、少しずつ譲り合う気持ちを持つことで、未来が少し変わるといいなと思います。ジャンケルの入口にしか入らなかつた私ですが、地球の環境という大きな問題の入口に立てたのかなと思います。

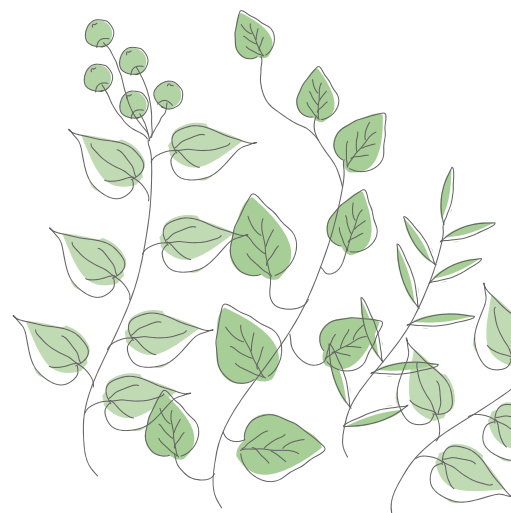


静岡県 袴田 あいさん

しゃべる木のおうち

しゃべる木のおうち
袴田 あい
「おうちさん、なにあい？」
あたしは、おふろでいふんのおうちにはな
しかけます。なぜかという、おうち加はぎ
んばさんとえり、あたしにはなしかけてるよ
うにさこえるからです。
あたしのおうちは、木のおうちです。はき
きつしてんりうくのやまでそたつた、すき
の木で、できている。やまのなかでは、き
くと、かざやとうふつたちと、おしゃべりし
ていたとおもいます。いまは、あたしのおう
ちになつて、さみしいでしよう。だからあた
しに、はなしかけてくれるのだとおもいます。
あたしは、なぞばきんばきんとおとあする
のかふしぎにおもい、おとあきんにきいてみ
ました。するとおとあきんが
「木は、てんきによつて、のびたりちがんだ
りするんだよ。」
といいました。あたしは、びっくりして、

「木は、いきっているんだなあ。」
とおもいました。
木のおうちは、いきています。コンクリー
トやてつのおうちのようにかたくなく、やあ
らかくあたにかい木のおうちです。木のおう
ちは、あたしのかぞくです。
木のおうちは、あたしたちを、あわやかみ
たりからまわってくれます。あたしも、木
のおうちをたいせつにして、まわってあげたい
とおもいます。
「はい、あなたのおうちは、あまりしゃべ
りません。おうちかとしをとったのが、あた
し小学生になつていそがしくなつたからな
のか、かわりません。あたしは、木のおうち
かたいきぎです。おうちかきみしくならぬい
ように、これからたくさんおしゃべりした
いです。」





兵庫県 齋藤 瑠乃さん

神様の木に出会って

神様の木に出会って

「すごい木がある」と、家族全員おどろきました。夏休みに、淡路島に行った時のことです。いざなぎ神宮で、ご神木「夫婦大楠（めをとのおほくす）」を見ました。もとは二株の木が、成長するにつれて合体し、一株に育っためずらしい木で、しめ縄がはりめぐらされていました。こんなにはく力のある木は初めて、二本の木がいつしよになっ

のばしても届かないくらい大きい幹で、ハ・五メートルもあるというものでした。木の周りをしき石にそってゆっくり歩くと、上が葉でおおわれているので、とてもすずしかったです。まるで森の中にいるようなにおいがしました。木にふれてみたいなと思っただけ、神様が近くにいたような気がして、さわっやいけないうような気がしました。神様の宿るご神木として大切にされていることがよく分かりました。

この木のじゅれいは約九百年で、兵庫県指定の天然記念物だそうです。平安時代から生きていると考えると、歴史に出てくる人たちもこの木を見ていたかもしれないと心がわくわくしました。葉が元気に生き生きとしていたので、まだまだ長生きするんじゃないかなと思いました。そして、わたしもいっぱい元気をもらった気がして、うれしくなりました。

調べてみると、日本全国には、じゅれい数

百年どころか、千年、二千年という木もめずらしくないそうです。わたしが家の近くで毎日見ている木からは想像できない大きさや時間です。そんなに長い時間生きているということは、その間の色々なことを全て知っているようで、さいてみたいくなります。

わたしは、神社に行くことが好きなので、これから神社に立ちよることがあったら、ご神木を探してみたいと思います。どんな木に出会うことができるのか楽しみです。



愛媛県 武田 英里さん

やさしいじいちゃんち

やさしいじいちゃんち

たけ田 えり

へやに入ると、じいちゃんが、たたみの上で犬の字でねていた。そよそよと風がふいていて、ちもちよさそう。じいちゃんのうでをまくらにして、あたしもいっしょにねころがった。じいちゃんはおた目をすうとだけあけて、わたしを見て、また目をとじた。

じいちゃんの家は、ざんぶ木でできている。

木でできた家をもくそうじうたくと言うらしい。この家は、じいちゃんと同じ年。じいちゃんのお生まれた年に、ひいじいちゃんかたてたそうだった。

「それじゃあ、この家とおとしよりやねい。わたしは言うところ、じいちゃんね。」

「もつと古い家はいい。はいあるよ。おしあがんがはせんごくじだいからあるし、せかいで一番古いお寺は、千三百年い上前にたてられたんだよ。もくそうじうたくは、手ちんと

手入れしたら何年ももつんだよ。」

このあいだじいちゃんと話をしたこと思い出した。

じいちゃんのおうでまくらには高すぎたので、あたまとたたみの上におろした。目をひらくと、天井に大きな木が見える。まっ黒ではがが四オセンチぐらい。小さいころは、大人に上げてもらって、ぶら下がってあそんでいた。

じいちゃん

「小さな声でよんでみた。」

「・・・えりちゃん、なに？」

「あの黒いの、なんなの？」

「あ、あれはね、はりって言うんだよ。はしうといっしきに、ホネになって、おうちをささえてくれる大きな木。」

「大きいなー。」

「ほうやね。今や、たらこんははりもって、家はすくないね。」

「なんでもないうい。」

「今は、コンクリートの家もふえだし、もくそうでも早く作れるやりかたで作る家がふえたけんね。それに、木が大きすぎるまで何十年もまつことをせん、たんよ。」

「早かったら、その方がええんじゃない？」

「むかしからの作りかたでできた家は、まsettつによって、へんかするんだよ。夏はすずしくて、冬はあたたかい。かえうきたらゆったりできる、そんなおうちなとよ。」

「なんがわかる気がする。じいちゃんはいつ

もやさしい。じいちゃんとはあちんかいからだと思っていたけど、家もやさしかったんだな。」

「じいちゃん、せみとりに行かない？」

「はんなり、ちよつとじいちゃんひするよ。」

「やっぱりじいちゃんが、一番やさしいかな。」



千葉県 泉奏花さん 祖父の眠る棺

祖父の眠る棺

祖父が他界した。

泉 奏花

計報を受けて駆け付けた時、祖父は布団に寝かされていた。早く会いたいと思っていたはずなのに、私は、なかなか布団のそばに近付けなかった。祖父の死を受け入れられず、祖父の遺体を怖いとさえ感じていたのだ。

しかし、納棺の儀式が一つ一つ丁寧に進め

られていく中で、私の気持ちは少しずつ落ち着いていった。お念珠を持たせてあげた時、祖父の手は柔らかく、ほんのり温かかった。私がくるのを待っていてくれたのだと思い、心を込めてお支度を手伝った。桐の棺に祖父を納めた時、冷たささえ感じた真新しい木の箱が、祖父を優しく包み込み、大切に守ってくれる温かなものに変わったような気がした。私は、深い安堵を覚えた。棺に眠る祖父に、もう、怖さなど感じることはなかった。私は

納棺を通して、自然の流れで祖父の死を受け入れていったのかも知れない。

多くの場合、すでに納棺されたご遺体との対面となる。すると、棺とご遺体とがひとつのものとなってしまう。しかし、納棺に携わったことで、私は「棺に眠る祖父」と「祖父が眠る棺」とを、別々のものとしてみることにできた。特に棺は、祖父のいる別空間を生み出してくれ、祖父を安定したものにしてくれた。私に安心感を与えてくれた。

お陰でその夜は、棺に眠る祖父に何度も何度も触れ、たくさん話し掛けることができた。祖父の優しい声が聞こえてくるような気がした。線香の香り、ろうそくが灯るほんのり明るい部屋、祖父の眠る棺。あの夜、あの空間だけ、違う時間が流れていたように思う。不思議な感覚だった。最後の夜は穏やかで、私を悲しみから救ってくれた。

考えてみると、桐の箱には不思議な力が宿っているように思う。私にはいくつかの桐の

箱がある。へその緒がしまわれた桐の箱。おひな様がしまわれた桐の箱。七五三の晴れ着や成人式の振袖がしまわれた桐の箱は、母から私へと引き継がれた。桐の箱は、しまわれたものを保管するだけでなく、大切な思い出を気持ちを、その時のまま残してくれる。ふたを開けた瞬間に、はっきりと記憶がよみがえってくる。大げさかもしれないが、桐の箱は、持ち主の人生が詰まった宝箱なのだ。

祖父との最後の別れの時、私は感謝の気持ち

を込め、棺をたくさん花で埋めてあげた。また、祖父が部屋中に飾っていた私からの手紙や絵も、全て棺に入れてあげた。「うちの孫は、ほんに可愛いってなあ」が口ぐせの祖父の棺らしいと、参列者から笑みがこぼれた。空っぽだった真新しい桐の箱は、祖父が眠る棺になった。祖父の人生と、祖父との思い出が詰まった世界で一つだけの棺。そして、それが祖父の最後の姿となった。焼かれて今もうないが、私は一生忘れない。



滋賀県 山下晃生さん

さびしそうな木

さびしそうな木

山下みつぎ

八月五日、あたしのすんでいるところは大雨でした。おじいちゃんとおばあちゃんのすんでいるよご町は、ひなんしじがでてひなんじょにひなんしたそうです。おうちにかえるようになるまで、わたしを学どうにむかえにきてくれました。学どうからのかえりみち、高とき川はかわらにあるおはかやグラウンドまで水がおしよせていて、はたけも見えなくなっていて、やさいもながされていました。大きな木も木もながれてきていて、小さな木もたくさんながれていました。あたしはそれを見てぜんぶくずれてしまった。たなとくわくなりしました。

つぎの日、かわらはぐちゃぐちゃになっていました。とても大きな木がなん本もかわらに上がっていました。えだがおはかやはたけにのこされていて、グラウンドもどろだらけでした。

おとうさんやちいさな人たちはその大きな木をチェーンソーで切って、とけていきました。おとうさんに、その木はすぎの木といって、ちやんと手入れがされていたら聞きませんでした。だれかがせかく一生けんめいがんばってそだてたのに、こんなことになって、手入れをした人もかなしいだろうし、わたしも同じ気持ちになりました。

わたしはそのたぐさんの木を見て、そのまますてしまわずになにかにつかえないかなと考えました。たぐさんのようにたなやつくえをつくったり、アクリルやかんばんなどのかざりをつくったり、バーベキューのたき火に、もわしてつかたりできると思いますが、今はまだ考えただけでじつさいにはできなかつたけれど、考えたことがやくに立つ日があるかもしれない。

雨は木を元気にしてくれます。でも、人が大切にそだてていた木をながしてしましました。そんな雨がわたしはいやです。雨と木が

これからは、とながよくできるほうを
考えてみたけれど、いまのわたしにはまだ分
かりません。でも大切なことだと思っからす
こしずつ、考えていきたいです。雨があたし
にも木にもやさしくなればいいなと思いまし
た。



京都府 田中伊織さん

僕の周りは素敵な木に溢れている。

僕の周りは素敵な木に溢れている。

田中 伊織

今年も暑い夏だった。祖母の家は普通の一軒家だが、周りの家と大きく違ったところがある。それは、家を取り囲むように、何本もの木々がうっそうと茂っているところだ。わずかに土地だが、もともと日本庭園風に植えられた木のほかに、鳥が運んできた種が大きく成長したものもあり、さまざまな樹種が混じった小さな森のようなのだ。

ここで僕たち孫はいつも遊ぶ。自由に伸びた松の木に登り松ぼっくりを弟にとってやり五月の子どもの日には祖母に言われて柏の葉をとって、杉の木に渡して屋根を付け、キャンピングカーを作る。木のてっぺんを食べるごはんは最高だし、秋になると家の裏にムベの実がたわわに実る。ほおばると甘くふんわりとした感触だ。冬の朝には椿の蜜を吸いに来るメジロの声で目が覚める。楽しくてしょうがない僕たちの遊び場だ。けれども一番この小さな森

の恩恵を受けるのは、実は夏なのだ。

祖母の家のクーラーは一台壊れている。でも新しいものを買おうとはしていない。もちろん、日中は暑くてたまらず、エアコンのある部屋で過ごすのだが、日が暮れてしばらくすると突然、涼しい風が家じゅうを吹き抜けるのだ。北の窓から流れてくる風はひんやりとして、夏の夜であることを知らせる。熱帯夜でもそうなのだから、本当に驚いてしまう。さつとシャワーを浴び、スイカにかぶり

つけば、スッと眠れてしまったのだ。

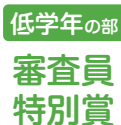
僕の家ではこうはいかない。寝るために二階に上がる時には、うたがような暑さになっている。眠るために少し前からエアコンをつけて部屋を冷やしておかないと眠れやしない。裏の神社の木が家にせまっていたころは、今より涼しかった。駐車場にしまったとき、木は切り倒されたので、涼しさはなくなっ

た。なぜだろう。小さなあの森の涼しさは、どういうことだろう。これは、太陽に熱せられた葉っぱの中の水分が、葉っぱの裏側から蒸発するからだという。葉っぱの裏側は冷え、日陰だった木の下は空気がさらに冷やされ、その木々の間を風が通ると、冷気がな

って家に入ってくる。昔の人もこうして夏を過ごしていたのではと思う。きっと木陰のありがたさを知っていたはずだ。

僕らは木に守られていたのに。確かに、水道管が木を根っこが痛める心配もある。だが、自然の恩恵を捨て、ごの家をエアコンでフル稼働させ、遠くに茂る木や林に出かけることもなくすごしてしまふ夏を、僕らはいままで続けることができるだろうか。森に木を植える活動もあるが、僕はぜひ家に木を植えることを勧めたい。そばにある一本の木が、きっと日々色々なことを気づかせてくれるはずだ。





宮城県 角岡こころさん

その後、はいぬての春が来ました。今よて

そして、三十年くらい前に少しづつ木がな

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	52
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----





エジプト・アラブ共和国 筱茉莉紗さん

木のすばらしさと生きるたくましさ

木のすばらしさと生きるたくましさ

「おはようございます！」
「おはようございます！」
朝、バスをおりると、先生のほかに、むかえてくれる木がある。それは、パティオにある二本の火炎樹の木だ。火炎樹の木は、五月の終わりがくると、真、赤な花をさかせる。その時は、一番、火炎樹の木がうれしい時のだろう。なぜなら、みんながパティオに来て、遊ぶからだろう。ぎゅくに、十月ごろになると、葉が落ち、木がはだかになる。その時は、火炎樹の木がさみしい時なのだろう。なぜなら、みんなが外に遊びに来ないからだ。私は、火炎樹の木と友達だ。木に会っただけで、すぐに気持ちが分かる。火炎樹の木は私といつもいっしょだ。朝、学校に来た時も、休み時間、遊びに行く時も、そして、おべんとうを食べている時も、友達

とわしゃべりをしてる時も。学校がおわって、さようならを言う時もいっしょ。ときどき、おべんとうを食べる時、私のかたに葉や花が落ちてくる時がある。その時、私はうれしくな、て、ほほえんでしまう。

七夕の時は、ささの葉を火炎樹につけて、たんざくなどをつくる。火炎樹の木につけたささの葉につるすなら、ぜ、たいにかなうと思、た。

火炎樹の木は、ギガにカイロ日本人学校ができて、ちよ、としたころ、そのころの生と、い、しよにうえた、現地スタ、フのエカートさんに、くわしくは知らないけれど、聞いたことがある。たねから、こんなに大きくなるなんて、そのころの生との気持が火炎樹にちゃんと伝わ、たんだらう。これから、も、も、と大きくな、ていっ、てほしい。

私たちは、火炎樹とも遊ぶ。音楽のじゅ、で、火炎樹のたねが入、た実を楽器にして、楽しくえんそうしたり、火炎樹の花をひみに

つけて、遊んだり。火炎樹の木と遊ぶ時間は、とても楽しい。き、と、火炎樹の木も、そう思、っているだろう。

日本の学校で、あるとき、台風でさくらの木がたおれてしま、たときがあ、た。みんながと、ても悲しんでいた。もちろん私も。そのさくらの木は、私がよくかくれんぼで、使、ていた、かくれ場所だ、たのだ。ときどき、さくらの木と心の中でおしゃべりをしていた。おつかるかな？

き、とみつからないよ。私がかくしているから。

だから、たおれてしま、たときは、すごく悲しか、た。さくらの木がなくな、てから、校庭がすごく、さびしくな、た気がした。さくらの木は、二本あ、たけれど、や、ばり、一本少なくなると、どこか、ものたりない。さびしい。た、た一本の木のこたけなのに、人間が死んだわけじゃないのに、私は、なんだか、すごくかなしか、た。

木は、生きている。私は、どんなに本物そ、くり、に、機かいて作られた木を見ても、それを、本当の木だとは、ぜ、たいに思わない。木は、たくましい。木をさわると、そのたくま、しさと、生きている強さが、心に、体に、伝わ、てくる。木は、私よりも、強く、強く、生きていると思う。木は、すばらしい。らんぼくに、け、たり、石をぶつけたりする人もいるけれど、私は、そんなことはしない。木のすばらしさに気がついたから、木がないと人間は、くら世ない。よいかんきょうになら、ない。それだけでなく、木は、私たちと同じ重き、の命をも、っている。この世の中で、人間が一番えらいわけではない。だから、私は、これからも、木を大切にしていこうと思、う。



北海道 野原 琉太さん
バルコニーの木

バルコニーの木
ぼくは、マンションの八階に住んでいます。ルーフバルコニーの柵のむこうに、木があります。大きいので屋根に土があって生えているのかなと思っていました。でも、マンションの屋根には土はありません。不思議に思ったので、よく観察してみると公園に生えている木とちがってコケの上に生えているました。屋根のコンクリートの上にコケがあり、そこに生えていました。お母さんに聞くと、ぼくが生まれる前に、鳥が飛んで来

て柵に止まりフンをしてコケに木のタネを落としてくれたのではないかと教えてくれました。はじめは、小さい芽から生え、何年もくりにかえし冬を越して太い枝をつけた。ぼくの身長くらいいままで育ってきたそうです。
今、地球が暑くなる「地球温暖化」が進んでいる中で、コンクリートの上の少しのコケだけで、ここまで大きく丈夫な木に育っているのはすごい生命力があるなと思います。
ぼくの勉強机から見える風にゆれるバルコニーのこの木を、ぼくは、ずっと大切に育んでいきます。





北海道 前田 健志さん

ぼくの自慢の木の家

ぼくの自慢の木の家

前田 健志

「木の家だ！」

「木のおいがする。」

友達がぼくの家のお父さんを開けたり、先に言う言葉だ。特に二年生の妹の友達も、応が素直でおもしろい。ぼくもこの家で暮らして始めた三年くらい前は、木のおいがかいで毎日うきうきしていた。しかし今は、慣れてしまったせい、木のおいを感じづらくな

北郷小学校

な、てしまった。だからそう感じられる友達

が、少しうさやましく思う。

ぼくの家は木がふんだんに使われている。

勉強机や棚も大工さんに木で作ってもらった。

建築家さんと両親が何度も打ち合わせをして

設計した、こだわりのつまった家だ。ぼくは

この木の家が好きだ。木のおいのいい所を三つ

紹介しよう。

一つ目は、さやさやとした木の手ざわりが良く、素足で歩くとなお良い。木のフローリ

ングに寝転がると夏でもひんやりとっていて気持ちが良い。

二つ目は、木の色や見た目がぬくもりを感じている。うちのかわは、あえてかわ紙をはらずに「OSB合板」という木片を固めた板をそのまま見せているので、ただの真白なかわよりもあたたかみがある気がする。何か心配なことや怖いことがある、ぼくは部屋を眺めているとだんだん気持ちが落ち着いていくような感じがすることもある。

北郷小学校

三つ目は、木目や木の色のちがいがあ

る。単調でなくてあきないという所だ。全部が

同じ色の床やかわではなく、木目や色のちが

いがあることによ、て楽しめるようになった。

いる。例えば、この模様はひらがなの」と

に見えるとか、動物の形みたいなどと、妹と

話すこともある。住み始めたころは、毎日何

個も見つけておもしろがっていた。

家の中だけでなく、外でふれる木も好きだ。夏休みには家族で森林公園に行った。森

林の中を歩いてみるとカミキリ虫が飛んできたので、虫とりあみでつかまえた。薄暗い所は少し怖い感じがしたけど、アニメ映画の世界のようだった。自然の木を見てから家に帰ると、家の柱が立っている木に見えてきた。特に、吹き抜けの下から二階の天井を見上げると、上まで真っすぐのびる柱や梁が大木のように思えてきた。やっぱりぼくはこの木の家が好きだ。

北郷小学校

近年、森林伐採によ、てどんどん木が失わ

れている。しかし、木の家にはたくさんの優

れた点があることに住んでみて気づいた。だ

が、ぼくは木の良い所をたくさんの人に伝

めていきたいし、木を大切にしたい。



福島県 水野谷 良太さん

森の木のプレゼント

森の木のプレゼント 水野谷 良太
ぼくのいふは、ひろい林をも、ています。その林には、松や杉などのたくさんの木がはえています。その中でおぎにのりの木があります。それは、クヌギの木です。リウウは、たくさんの虫がとれるからです。クヌギの木は、たくさんののりえきを出します。虫たちは、そののりえきがたまらないうつなです。でも、ぼくが、においをかいても、なにものかんいせん。

その林に、一本のふしぎなクヌギの木があります。その木のまわりの草、そうち、お父さんが草かりきで、きれいにしてくれました。夏休みにな、てから、まいあさ虫とりに行きました。お父さんが木をあげて、ぼくが、おちてきた虫をさがしてとるからです。そのふしぎな木からは、なぜかクワがタしかおちてこないのです。今まで、その木から五ナびぎいじょうとれたけど、カブト虫は、ナび

ぎも、いせんプレゼント。お父さんは、クワがタばかりのリウウがわからないうつな、ていしました。ぼくは、も、と木くてリ、ぼく木にカブト虫は、いるんじやないかなと思います。

それともう一つ。まいとし、夏がおわるといくしていたクワがタをふしぎな木にはなします。そのクワがタたちが、たまごをうんで、い年に、またおえるのがなと、思います。カブト虫をばなしたら、い年とれるかもしれせん。

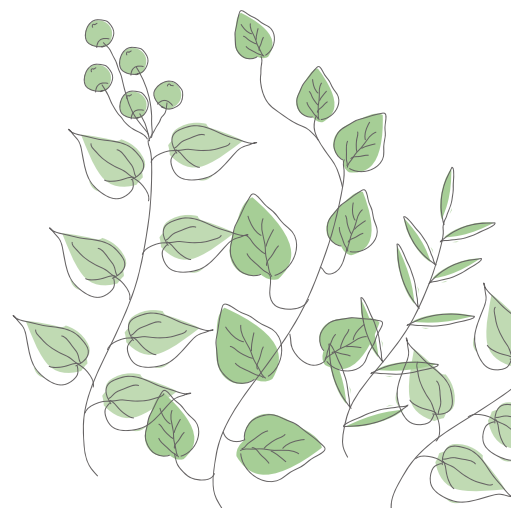
お父さんが小さいころは、林や森がたぐさんあ、つ、クヌギの木もい、ばいあ、たそうです。が、そのもぎれいにしてあ、て、子どもだけでも虫とりに行けたそうです。今は、ていれが、まにあわなくて、ジーンガルみたいなとつたけです。ていれがまにあわないとマコは、ソーラーパネルが、つくられ、ピカピカに光、ています。あついにソーラーパネルを見るとよけいにあつくかんじます。

林や木がすくなくなると、虫たちだけであんな鳥やどうぶつが、すまところも、なくなってしまうので、とてもかわいそうです。

すこしずつでもいいから、林や森の手入れを手伝って、こん虫やどうぶつたちがたのしくすごせるようにしたいです。草かりは、さかいせつがすので、ごみれりや、木にまがついたツタをと、たりしたいです。

ぼくのすんでいるところは、もともと、林や森がたぐさんあ、たみどりい。ばいのとこちです。

これからは、林や森を大いにしていきたいです。そして、大きいクワがタをとりたいたです。





山形県 戸村 杏莉さん

我が家のシンボルツリー

我が家のシンボルツリー

戸村 杏莉

私の家には一本の大きな木があります。カ
ツラという木です。この木は私がまだ10歳の
赤ちゃんだったころ家を新築した時に父が植
えました。当時はまだそれほど大きくなかっ
たようですが、今では二階の屋根を超えるく
らい大きくなりました。葉っぱはハート形で
とてもかわいいです。この木は、秋になると
葉っぱが落ち始め、冬は枝だけの姿になりま
す。そして春になると少し赤みのある新芽を
付け、夏には枝にたくさんの緑の葉っぱを付
けて日かげを作ってくれます。毎年初夏には
ツバメがやってきてゆれる枝に気持ちよさそ
うに止まって休んでいます。私は
「今年もツバメが来てくれるかな」と
と楽しみにしながらいつも待っています。
今は大きく成長したこの木ですが、一度枯
れてしまいうるようになったことがありました。
枝の半分くらい葉っぱが付かず、元気がなく

なっていました。

「どうしたんだろう。病気になるのかな。」
私はとても心配しました。家に遊びに来た祖
父が、

「木の根元に水をかけたら土から虫が出てき
たぞ。根っこが虫に食われてしまったんじや
ないかい。」

と知りせてくれました。父と一緒に見に行く
と本当に虫が出てきていました。

「もうダメなのかもしれない。このまま枯れ
てしまうのかな。」

と私は思いました。悪くなったら枝を切って様
子を見ましたが、次の年もその次の年も新し
い枝はのびず葉っぱも付きませんでした。半
分枝も葉っぱもない木を見て、

「なんだかさびしい木になっちゃったな。
格好も悪いし、もう全部切っちゃおうか。」
と父が言いました。でも私は、

「お父さん、もう少しそのままだにしてみよう
よ。この木が無くなったら私悲しいよ。ツバ

メも休むところが無くなってしまうよ。」

と言った。残してもらえようをお願いしま
した。父は私のお願いを聞いてくれて、もう
しばらく木を残すことになりました。すると
翌年の春になり、急に枝に新芽がたくさん出
始まりました。そして、夏には緑色の葉っぱを
たくさん付けてくれました。

「この木も頑張って生きてるんだな。こん
なに元気になってくれて良かった。」
と、私はすごくうれしくなりました。そして、

この木の生命力にとっても感動しました。

私はこの木を下からながめるのがとても好
きです。大きく枝を広げて私たち家族を守っ
てくれていようかなと気がするからです。私と
一緒に大きくなつたこの木を、これから大
切に育てていきたいと思っています。

そして、我が家のシンボルツリーには今年
もツバメが来てくれました。また来年も待っ
ているよ。



埼玉県 福井 遥さん

木をめぐる二つの気もち

木をめぐる二つの気もち

福井 遥

「ミランソレミ レミレラレミソ」
やさしい音色で始まるこの曲は、ピアノの発表会でひいたバウムクーヘンという曲です。中から流れるような音にかわり、さいごはそうだな感じで終わるともすてきな曲です。

バウムクーヘンはドイツのおかしで、木の年りんをイメージしたものだそうです。

「小さな木が、時間をかけて大きな木にそだっていくすがたを頭にうかべながら、ピアノをひいてくださいね。」

とピアノの先生がお話してくださいました。さらに、先生が年りんのしゃしんを本でさがしてみるといいですよとおっしゃったので、家に帰ってさくさくさがしてみました。

わたしは本物の年りんも見なくなつたので、家の中を見わたすと、テーブル、ゆか、はしら、本だななどに年りんを見つけることか

でました。中でも、お父さんが大切にしている大きな茶色いダイニングテーブルには、まるでなみのようなちやうどの年りんや、丸くかわい、いふしもありました。

「このくらい年りんになるにはどのくらい時間がかかるの。」

とお父さんに聞いてみたう、

「五十年はかかるんじゃないのかな。木は大きくなるまで時間をかけて育てられてきたから、すてきな年りんになるんだよ。」

と教えてくれました。五十年という想ぞうもできないくらい長い時間をかけて、木が大きくなったことにおどろきました。さらに、お父さんは木をまっすぐに育てるためには、草をかったり、えだを切ったりして、多くの手間がかかるということをお話してくださいました。

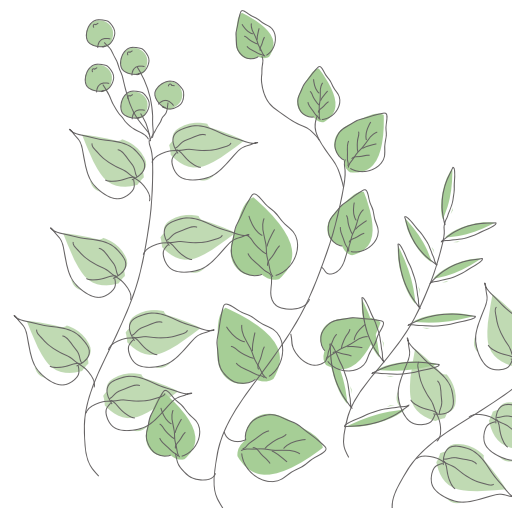
しかし、木が大切にされていらないと思ったこともありました。近頃にあつた小さな林の木が次々にチェーンソーでたおされていくのを見たのです。その木にはよくスズメや

マバトなどの鳥が休んでいたたり、ナヨウナヨウがひらひらととんでいたので、かれらはこれからどこで休んだり、遊んだりするのだろうかと思うたらむねがざざとくるしくなりました。木にも命があるのです。

木にも命があるからこそ長い間大切に木を育ててきた方は、もつとさびしい思いをしなから木を切っているのかもしれません。ちょうど、子牛や子ぶたを育てた方が市場に売ったりするときと同じように。しかし、お肉を

子どもたちがおいしく食べてくれるのを見て、う家の方はさつとよろこんでくださるでしょう。同じように、切った木がrippぱな家や家ぐになるのを想ぞうすると、木を育てた方がうれしくなるでしょう。

バウムクーヘンというすてきな曲のおかげで、木を大切にぞだててきた友のさびしい気もちと、木が世の中にやくだっていることがうれしい気もちという、二つの気もちに気がつくことができました。





千葉県 清水 冬和子

木の香りいっぱい为学校

木の香りいっぱい为学校

清水 冬和子

「おはよう。」

私は毎朝、びた箱で友達にあいさつをする。

そしてすぐに、大きく大きく息をすう。

それは、木の香りをいっぱいかぐためだ。

すると、鼻から木の香りが、すーっと入ってくる。

私は、ほんの少しやさしい気持ちになる。

私は、木の香りが大好きだ。

私の通っている学校は、とてもめずらしいらしい。他の学校より、木がいっぱい使われているそう。一年半前に新しく建てられた、ピカピカの小学校だ。

ゆか、手すり、天井、つくえにロッカーまで全部、木でできている。

びた箱からクラスのある教室まで、いろいろな木が、私をおでむかえしてくれる。

私は、くんくんと鼻を鳴らしながら、毎日ろう下を歩いている。

初めて体育館に入った時、私はびっくりした。

体育館の屋根は、長細い木が何本も組まれていて、丸い円を半分にしたような、形をしている。

なんだから、大きなまぼこみたいだ。上を向いて歩いていたら、頭を上げすぎて、後ろにたおれそうになる。

私は、そんな時だれにも気づかれないように、ぶっと、笑ってみる。

木のもようも、なかなかおもしろい。

じつ、葉中、木のもようが気になって、ぼーっと見ていた。すると、もようがだんだん人の目に見えてきた。思わぬ「あー」と、声を上げたくなつた。

そして私はまた、だれにも気づかれないように、ぶっと笑ってみる。

使っている木の種類を、くわしく説明してくれている場所もある。

せ。着られて、一まいの板になつて、いる木

か、何の木と何の木を使っているのかを、知ることができる。

サクラ、クリ、スギなど、私の知っている木があるし、少しうれしくなる。

その場所は、ちよ、とした小さな小さな、木の博物館みたい。

もうすぐ、夏休みが終える。一カ月ぶりに、学校に行く。

友達に、「おはよう」と、あいさつをする。毎日が、もどってくる。

「おはよう」の言葉といっしょに、私はまた大きく大きく息をすうと思う。

ひさしぶりだから、ちよ、となつかしく思うかも。

クラスのある教室まで、木のトンネルのような、ろう下を歩く。友達とたくさん木が、私をまわっているかな。



福井県 高橋 結さん

たいせつな木

たいせつな木

高橋 結

わたしは、「おおきな木がほしい」とい
本がだいすきです。かおるという男の子が、
もしもおおきな木があつたら、おへやをつく
たりどうぶつのおえがほしいとそう言うお
話です。わたしも木の上におへやをつく。で
りすとづはんをどべたり、ぶらんこをつく
たり、木のぼりのれんしゅうをしたいです。

わたしのうちのちかくには、あまり木があ
りません。でも、おばあちゃんのおうちは木
にかこまれたばしょにあります。パパは子ど
ものときに、山やじんじゃでたくさんあそ
んだそうです。わたしも山やじんじゃであそ
びたい。たら、おばあちゃんのおうちにつ
れていって、ねました。おばあちゃんのおう
ちで、あやごはんをだてから、いしこのも
ち、人となんにいなました。じんじんの
前をとおって、ねのりのこけつ、こけつをい

て、山の中にひいていきました。まっすぐ
な木がたくさんあります。ななめのところ
にある木も空にむかってまっすぐにのびるの
は、なんでもうと思ひました。かえりみち、小
い木のおうちに入っているおじさんを見
ました。

それから、じんじゃでかみさきに、おあい
つをしました。じんじゃは、水が木があ
りました。とわって、みたら、わふわふして
いたので、くりにました。雨がふっていたが、
かみとハバが、ていきました。のぼることは
できなかつたけど、わたしのおへやをつくる
のに、たつの木でした。じんじゃのかみさ
きがあるところも、木をつくたおうちでし
た。木のりやうかいしました。パパがきりか
で、ねんりんをおしえてくれました。なんさい
の木かわかるが、とて、もおもしろいです。
百さいいじょうのおじいちゃん。んの木でした。
木のかけらをもう、かきときました。
たんけんてくさんの木をみつめました。

木は山とかこうえんにあると思ひて、いたりと
おばあちゃんといえおじいちゃんといえ、
はありのいえも、かみさきのいえも、で、
木でした。木は、とて、もたいさつなと思
ひました。





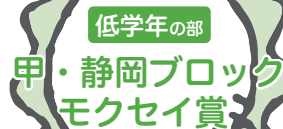
長野県 名取 優寿希さん

木と共に生きていく

木と共に生きていく
私の住む岡谷市は、周囲を山に囲まれた、自然が豊かな諏訪盆地にあります。今年、諏訪地方では、七年に一度行われる「郷社祭」が行われました。郷社祭は、山の奥から大木を里へ曳子が協力して運び、神社の四隅に建てろ神事です。「奥山の木、里に下りて」となりしという言葉の木遣りもあります。郷社祭は、山出しと里曳きに分かれていて、金

ろ込み、リンケにロープをかけて丸太を引、ぼりしました。太い木は、大人でも一人で引、ぼりすることができず、おじいちゃん達にも協力してもらい数十本引、ぼりしました。ま、黒になて引、ぼり、たひの木を製材してもらうと白いともきれいな板になりました。
家の工事が始まり、棟上げの日はおばあちゃんやと様子をみに行きました。クレーンで材木をつり上げて家の骨組が出来ました。こんな

ろきしました。家が出来るのが楽しみです。毎日のように工事の音が行、ていきます。玄関のドアを開けると、木のとていい香りがします。エアコンをつけていないのに外よりすごく涼しくてびくびくしていました。木のぬくもりと、手伝、てくれた、たくさんの方のぬくもりを感じられる家に早く引、越したいです。
木のある暮らしを覚えてみると、木は空気が水とされにしたり、木材にば、たり、家具にば、たり、お祭りをしたり、色々なかたちで私たちの生活に深く関わりがあります。木を植えてから大きくなるには、何十年もかかることを知りました。今、たくさん木を使、てしま、て、将来、木がなくな、てしま、うと困るので、木を植える活動に家族で積極的に参加したいです。私達も山をさちんと管理して木をたくさん育て残していきたいです。



会えなくてもつながっている

高はし陽馬

「陽馬の竈、木の中にい
いて、が梁ニホッとしてい
ました。ぼくの
家は、木のきでできた家です。ゆが、天
じょう、がベア家の金体に木のきを使
います。ぼくは、この家が大好きです。ぼくが
二年生の時に、お父さんがたててくれました。
それまで、ぼくたちは、おじいちゃんの家
に、住んでいました。ほくは、二の家の大

す。おじいちゃんの家は、ちく百三十年くら
いで、大きな大黒柱と大きなはりのある家で
す。ぼくのおじいちゃんのおじいちゃんのお
父さんがたてた家です。この家は、くぎを打
とんど使っていないで、木と木を組み合わせ
てたてられています。今まで台風が地しんが
来てもこわれた事はないそうです。

ぼくは、百三十年前の人間でどんな感じだ
 ろうと思つてパソコンで調べてみるて、事物を
 見た人がちよんまげの人の「正直が出てきまし

[illegible]

と思
いま
した
そ
し
て

この時代に、みんなに大きくて台風がた

大工さんもおいし、木もおいし、
とお思いました。ぼくが今住んで
いる家をたつた時は大きなワ
シー、車が来たリ、たくさん
の電気が使われていました。お
いし。

の事をたてた時は、さういふ物はなかつたからどうかつて寝をたてたのが氣になつて、おにいちゃんに聞いてみました。おにいちゃん、金て主作業だつた事が長い時間をかけてたてられた事を教えてくれました。ぼくは、おにいちゃん、家の事を聞くうちに、この家の事をもうてずきに知りました。

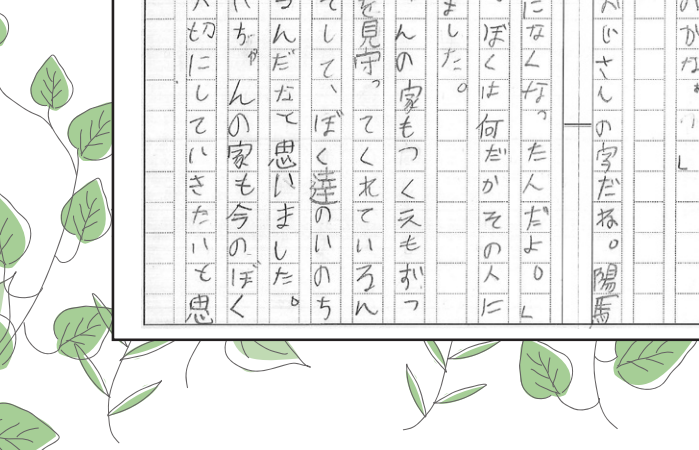
おじいちゃんの家には、二の家と同じです。
に作られた小さな木のつくえがあります。石
のつくえは、ぼくのおじいちゃんがいち

んが子いものこうに作られた物で、この家
に住んでゐた人がみんな使つてゐるつくえで
す。だから、そのつくえには色んな人が書い
たメモが落書きが書いてあります。二の前、
ぼくがそのつくえを使つてゐる時に、つくえ
のすみに計算のメモが書いてあるのに気がつ
きました。ぼくは、おじいちゃんに
「おれが、書いたのかね」と聞くと

「おじいちゃんのおいさんの字だね。陽馬」

かゝられるすゝと前になくなつたんだよ
と教えてくれました。ぼくは何かがその人に
会えたような気がしました。

ぼくは、おいいち^ちの家の家もつくえもがつ
て長に間みんだの車を見守^{もも}てくれていろん
かなく思いました。そして、ぼく達のいのち
をつないでくれていろんだなて思いました。
だから、ぼくは、おいいち^ちの家の家も今のぼく
の家もずっとずっと大切にしていきたいと思
いました。





静岡県 赤堀 塔子さん

「自然の恵みの清沢和紙」

「自然の恵みの清沢和紙」

赤堀 塔子

私の住んでいる所は清沢とよばれています。清沢は山に囲まれているので、木がたくさんあります。そして、その清沢には、清沢和紙というものがありません。清沢和紙は原料として、こうぞ、みつまたという木の皮が使われています。他にも、和紙を作るときは、道具として、たぐさん木や竹が使われています。和紙作りは、清沢に住む山田さんご夫妻にいて、ぬいに

教えてもらいました。まず最初に、森林教室という、山田さんの山へ行き、葎の種類、土のこと、木のことなど、いろいろ教えてもらったり、実際に木を切るところを見せてくれたりしました。それから和紙作りが始まります。最初に学校で種からトロロアオイを育てます。次にみつまた、こうぞの木の皮をとり、ゆでてやわらかくして皮をむき、思度（しど）をけずり、木のせいでとれ出します。そして清沢の冬、川で川ざ

らしをしてよごれを落とし、白い色に近づけます。その後木づちで叩き、木のせいをできるだけ細かくします。山田さんの合格をもらえらるまで、せいの細かくしたらいよいよ紙すきです。ここで、のりの役割でトロロアオイの根をこうぞとみつまたと混ぜます。最後に天日干しをします。このように、たぐさん（たぐさん）の工程を経て清沢和紙ができあがります。みんなが歌を歌いながら、たぐさん、とても楽しい作業でした。清沢和紙の原料は全て、自

然のものでできています。そして全て手作業です。洋紙のように化学薬品を使ったり、大量の電力を使ったりもしません。現代の和紙は洋紙のおかげでとても便利になりました。でも、昔の日本人の方が自然を大切にしていたと思います。豊かな自然を利用して、遊（あそ）んだり楽しんだりするための山や海、川を思い浮かべる人が多いと思うけど、昔の日本人は自然の恵みを大事にして

らしを豊かにしてきたのだと思います。だから、昔の日本の方が持続可能な社会になっていたんじゃないかな、と感じました。

私は清沢和紙がこのままなくなってもいいとは思いません。それは、昔の清沢の人達が自然を大切にしながら一生けん命作ってきたものだからです。だから、清沢和紙がなくなると山田さん達が教える子供がいなくなるとも、清沢和紙をなくしたくないなと思います。



岐阜県 松浦 衣那さん

大すきな木のいえ

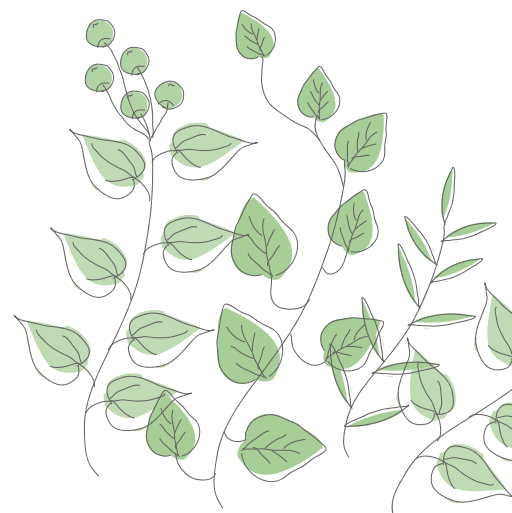
大すきな木のいえ

まつうら えな

あそこのいえは、たくさんのおもちゃを
でています。しびら、テール、いす、か
うたあ、しよ、さだなもせんぶおもちゃで
います。げんかんからいその中にはいると、
木のおいかにして、木の中にもいるみたい
です。あんなにいいえをたてるまえのうら
いは、ひくねんちかた。ていて、いその中
には、ふとくて大きな木がたくさんありま
した。だいくさんは、その大きな木をすて
たいせつにのこしてくれました。
あんなにいいえをつくるまえに、だいく
さんのこころにいいえがありました。こう
いうに、だいくさんの大きな木があっ
て、その木をつかいて、いそをみま
した。木は、いろいろなかたにへんしん
して、いそをみましました。
はかに、いそをみましました。だいく

んかのこしてくれたい。ふんいそ
たらしいいえでも、水つやくして
です。よえとちがうかたちだけ
なったり、いそのだいや、きつ
んたあになたり、さくになたり
いづつやくです。木はふるくても
す。とつかえるのがうら
あ。あたしは、木のもようをす
えようはなくて、あら、たか
しておもしろいです。

木のいえは、はだしでふるいても
いす。なつはつめたて、ふん
いす。か、こうからいそに
いつもはだしでいます。
木のも、ていそからは、す
いました。百年をかくた、ても
あたしたちをたのしませてく
たちをえがみにしてくれま
そんなあたかい木のいえが、
すきです。





愛知県 内藤 綾乃さん

間伐体験で学んだこと

間伐体験で学んだこと

内藤 綾乃

六月のお休みの日、お父さんの会社のイベントで間伐体験に行きました。

私は間伐という言葉を知らなくて、どういうことなのかなと思っていたら、山林の木が育ちやすいように適度に木を切って木と木の間を広くすること、なのだそうです。

最初、木を切、てしまうなんてかわいそうだし、木がどんどんなくな、てしまうと思、

ていたけど、間伐をすることで残された木に、ちゃんと日光が届き、根をは、て丈夫に育つことになり、そのおかげで土砂災害などから私たちの生活を守、てくれているということが分かりました。

実際、間伐するところを見学してみ、私の何倍もの大きさの木がバキバキといいながらゆ、くりと倒れてい、て、地面に倒れたときにとてもしな者がな、てび、くりしました。だけど、自分たちよりも大きな木をた、

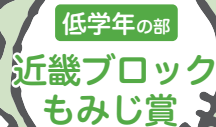
た二人で切、てしま、て本当にすごいなと思いました。

間伐の見学をしたあとは、間伐材を使、ていすを作りました。何枚もの板を組み合わせて作、たいすは見た目は小さくても誰でも座れるようなとても丈夫なものになりました。私はま、すぐ釘が打てな、たけど、お父さんがま、すぐ打つやり方を教えてくれたので、なんとか上手に釘を打つことができました。こうして、間伐で切られた木を使、て生活で

必要なものを作、ていくことというのは、森林にと、ても人間にと、てもいいことにつながるの、で大切にしていき、たいことだなと思いました。

私の家も木で作られていて、家のなかにも床や階段、机、いす、紙などいろいろなものに木が使われています。木はあたたかみがあり、丈夫で加工しやすく、光合成で空気もきれいにしてくれる今の私たちの地球に必要な不可欠なものです。今回の体験で、その木があ

る森林を守ることがとても重要だと思いました。しかし、山林のなかで残す木にあたらなように切る前に準備して確実にねら、た場所に入、きな木を倒す間伐作業というのはとても危険なため、けがや命を落とすこともあるそう、で、林業をする人たちも少なくな、てい、ると言、ていました。山林を手入れしていくということが重要な仕事なんだということが、も、と、と日本中に広が、てい、け、ばいいなと思、いました。



「クロガネモチのき」

おともだちのうちにあそびにいったとき

ちいさいクワガネを
てもらて、

[illegible]



兵庫県 宮崎純大さん

家族をつなぐ木

家族をつなぐ木
宮崎純大
先日、僕はお父さん、お母さん、妹の四人で森林浴へ出かけました。とても暑い日だったので、正直に言って最初は少し嫌な気持ちでして。
公園に着くと、やはり予想どおりの暑さでした。少し歩いただけで、汗が玉になっただけの上を歩きます。
「暑いなあ」
「暑いなあ」
出てくる言葉といふはそればかりでした。しかし森林の深いところに来たとき、急に涼しくなりました。空気が変わったような感じがしました。涼しくなると同時に、音のなさが一瞬消えたような、そんな不思議な感覚でした。
「涼しいなあ」
「涼しいなあ」
僕たちの言葉も変わりました。
気がつくと、お父さんは妹の「いーかー」を

押し、僕はお母さんの横で歩いていました。あまり見えれば僕たち以外は誰ともみず、葉っぱの間から太陽の光がのぞいていました。さうさまであれだけ厳しかった太陽が、僕たちを優しく照らしてくれているように思いました。
「風がすこし吹いたみたい、さわさわさうらうら音があたりを包みます。僕はお母さんのまわりを歩きました」
「いーどうしたん」
お母さんは笑いかう言いましたが、すぐに僕の手をとり返してくれました。お母さんの手はとてやさしくて、僕の心まで元の気持ちに届くように思いました。
「手をつなぐなんがめずらしいなあ」
お母さんは僕を見て言いました。急に恥ずかしくなると僕はお母さんかうすこし離れ、妹の横へ行きました。妹は笑って僕を見上げていました。
帰りの車の中、僕はいつの間にか眠っていました。窓に曇ったように妹も眠っていました。

いた。お父さんが妹を抱っこして家へ入り、ベビーベッドへ寝かせました。そのベビーベッドは木で出来ており、僕が赤ちゃんの頃に使っていたものです。手すりのところは、昔か先生がくれた僕が毎日かんでいたように、少しけがれています。妹の寝顔を見ながら、何かが不思議な気持ちになりました。
僕は大人になリ、習い事もなくなりました。でもこのベビーベッドは、ずっと前から僕の心を変え、いまは僕を支えてくれています。
「人間は木に育ちていくんだよ」
以前にお父さんがそんなことを言っていました。確かに今日、優しい日差しから木は僕たちを優しく包み込んでくれています。そして妹は、この木のベビーベッドで何年も眠ることを覚えています。
僕から思う。兄妹の木のつながりはもうちいさな木と、木をとおしてつながっているような感じがしました。そして今日、過ごした家族の時間の真ん中に、大きくてやさしい木

がありました。



愛媛県 柚山 琴美さん

木で作られたおままごとセット

木で作られたおままごとセット

柚山 ことみ

わたしは、二才のおたん生日のプレゼントに、木でできたおままごとセットをもらいました。しまっている時は、もち運べるようになっていて、開くとギツナンと大へん身します。じゃ口や引きだしがついていきます。口はクルクル回って、引きだしには木でできたほうちやまないた、べかなが入ります。色はついていませんが、しましまの、もようが入っています。そのもようは、はばの大きいものや小さいものがあることに気づきました。ふしぎに思いお父さんに聞いてみると、「それは、年りんと言って木が大きな時に出てくるもようだよ。数える木の数があるんだよ。」と教えてくれました。それでその線を数えてみると、わたしの年よりたくさん線の線が入っていて、わたしが生まれるずっと前からあった木なんだなと思いました。

次に手ざりに気づきました。学校に生

いる木や公園の木は、とてもざらざらしているのにわたしの木は、とてもざらざらしていません。スベスベしているのに温かい感じがします。お父さんに聞いてみると、「木をたくさんみかんと、つるつる、スベスベになるんだよ。木は、生きていたから温かいんだよ。」

と教えてくれました。いつも気づかなかったけど家のやがや、は

しら木でできていて、つるつる、スベスベしていて温かいことに気づきました。

きつこのおままごとセットは、わたしが生まれるずっと前の木をたくさんみかいて、一生けんめい作ってくれたんだなと思うと、この木のおままごとセットが、もっと大

きになりました。





徳島県 城福悠々香さん

「私の好きな場所」

「私の好きな場所」

城福 悠々香

「ただいまー。」「私が家に帰ってくるたびに、行く場所があります。それは杉の木でできたリビングの床です。毎日、暑いなかランドセルをせおって帰ると、汗だくになります。そんな中、リビングの床にねころぶと、ずずしくて、さわるとつるつるでサラサラしていて、とても気持ちが良いです。今は夏なので、ずずしいですが冬になると温くてほっとします。これが私が杉の木の床へ行く一番の理由です。」

では、杉の木の床がいつから好きになったかと言うと、初めて床にねころんだ3歳の時です。私は小さいころから家でのんびりねころぶのが大好きで、その時も夏だ。たのびつつも、よりたくさん気持ち良さを感じました。ほっぺを床につけて、ぎゅーとして、いる写真がのこって、いって今でも見るとわらってしまいます。でも、つづいて杉の木の床は気持ちが良い

いのだろう？と今まで考えたこともなかったけれど、気持ちが良いと感じるには理由があるはずなので、調べてみることにしました。まず、杉の木は高くまっすぐに育ち、木目が直線的で加工がしやすいと言うことです。だから、たくさんさんの家や家具に使われています。

また、空気をたくさんふくんでいて軽く、ふれると夏はサラサラ冬はあったかいというせいしつがあります。杉のさわやかな香りに

はリラックスこうがあり、抗菌・防虫作用があるそうです。だから、小さな子どもでも安心して安全です。ついつい杉の木の床に引き寄せられてしまうのは、このような理由があるからだと分かり、とても面白い発見でした。

ほかにも杉は日本で一番多く植えられる日本固有種で、縄文時代から利用されてきたれき史があります。これは日本人とともに歩んできた木と言えます。時間がたつと木目

がこくなり、床のようか変化します。時々木目が顔に見えたりしてびっくりすることもあります。それが好きなところのひとつです。しょう来は杉の木でできていて、自ぜんが強く、風通しが良いすみごちの良い家になります。



鹿児島県 盤若 よつばさん

木にかこまれたわたし

木にかこまれたわたし
盤若 よつば
わたしは、木がいっぱいあるところ
で生かっています。いえは木の
いえだし、学校もまわりは森
でかこまれているからです。そ
なたしの生かたしょうかいし
ます。

まずは学校です。わたしの教室
には同じくう生はいません。な
で、こくごや算数のおべんきう
は、先生とわたしだけでします。
なので、とてもさみしいです。で
もわたしは、かかっているつくえは

木でできていて、今までつかって
いた先はいたちのつかっていた
ころのさざがのこっています。さ
ずを見ると、なんだかいっしょに
おべんきうしている気もちにな
て、「まけないぞ」という気もち
になります。だからさみしい気も
ち、いつのまにかとんでいきま
す。

学校の近くには、きれいな川えき
といわれるふるい木のエきもあり
ます。今年で百十九年目らしいで
す。そんなに前のえきだ、たが、
こわれかけていると思、ていたけ

ど、ちいさのうたがしうりを
してくれて、きれいなえきになリ
ました。そのおかげでたくさんか
んこうさくの方かきてくださリ
ます。わたしにもなにかできなり
かと考えて、ヒタカザリをみな
でつくりました。えきにかざって
いるのを見ると、ちや色の中にさ
れいな色が入って、とてもえき
とあっていました。うんでん手さ
んや、おきやくさんからも、
「このかさリ、えきとあっていて
とてもすてきだね。」
と、言われて、とてもこころがほ

ぼがしました。
さいごはわたしの一ばん大さき
ないえをしようかします。とく
にみんなでこはんを食べる大きな
テーブルがお気に入りです。この
テーブルは、いつでも大かつやく
で、こはんを食べたり、おべんき
うをしたり、た、さうのたいに
へんしんしたりします。そして、
いやなことあっても、そのテー
ブルに行くと、いやなこともどっ
かにスポーンととんでいくまほう
のテーブルもあります。そんな
まほうのテーブルがわたしは大

さです。
わたしのまわりには木がたくさん
あります。そんな木がたくさん
ある森かすこしずつへってきてい
ると聞きました。わたしは、「森
をまもりたい」と思、て、図書か
んでしりべてみました。そして、
今のわたしにはできないことが書
かれていました。でも、あきうめ
ずにしりべていくと、ゴミをひろ
うことも森をまもることにつな
ると分かりました。ゴミをすてな
い、あちていているゴミをひろ
う、たしでもできます。じぶん

ることをして、わたしは大人にな
て、おばあちゃんになっても、わ
たしは、木にかこまれた生かつか
で、さるうに、これからはじぶん
にできることをがんばります。



大分県 釘宮 里帆さん

三千年の時を超えて

三千年の時を超えて

釘宮 里帆

「柱をさわってみて下さい。」
法隆寺の回廊で、観光ガイドの方から声をかけられました。大きな柱にそっと手を当てると、「とくとくとくと」と柱から音が聞こえてきたのです。それは、ヒノキが呼吸する音でした。三千年の時を超えて、ヒノキは生きていたのです。

私は、歴史の勉強が大好き。修学旅行では

歴史や文化を現地で学ぶことができるとても楽しみにしていました。ところが、五月に新型コロナウイルス感染症にかかり、私は修学旅行に行けなくなりました。悲しくて、くしゃくしゃと涙が止まりませんでした。それでもあきらめきれない私は、夏休みには奈良県へ「やり直し修学旅行」へ出ることを決めたのです。

一番はじめに訪れたのは法隆寺。教科書で見た通りの建物や仏像に感動の連続でした。

法隆寺は推古天皇と聖徳太子が六百七年に建てたお寺で、世界最古の木造建築です。千

三百年を生きて抜いているのです。法隆寺の西院から人の回廊を支える柱や五重塔・金堂は樹齢約二千年のヒノキが使われているそうです。ですから、これらのヒノキは約三千オ、今もじょうぶで強く美しい姿を見せてくれていることは、まさに奇跡です。

回廊の柱の、ヒノキの息づかいを聞きながら、私は三千年前の日本のくらしを想像し

ました。「縄文人が狩りをしていたのかな、石器や土器を作ったのかな」と考えるとわくわくします。でも、三千年間の人間の歴史を見てきたヒノキは、今をどんな思いで見ているのでしょうか。止まらない地球温暖化なくならない戦争、失われる命を見て、きくと私たちが言いたいことがあるはず。その思いを感じながら私は目を閉じていました。次に訪れたのは、東大寺の正倉院の宝物殿です。正倉院には、パルシャからシルクロ

ドを通って伝わった水差しやガラスの器、ピワなどの宝物が納められています。十三百年たっても宝物が美しく保存されているのは、木を積み重ねた「板倉造」という日本古来の建築の知恵があったからだと思います。積み重ねた木材が、湿気が多い時には湿気を吸ってすきまをなくし、乾燥した時には縮んで風通しをよくするのだそうです。正倉院と宝物を長持ちさせるためのコツは、通気性を良くすることなのだそうです。

今回、奈良県へ「やり直し修学旅行」に行けたお陰で、私は日本古来の歴史や文化と学ばせてもらいました。長生きする木材について知ることができました。世界最古の建物を支えるヒノキは、たしかに息を吐いていました。いにしえから受け継がれてきた日本の建築技術の素晴らしさと目の当たりにして、心から感動しました。三千年の時を超えたこの奇跡をこれから守り続けていきます。

審査員の講評

イラストレーター

はせがわゆうじ氏



今回もまたまたハイレベルな作品が集まりました。

最終選考に残った作品は、どれも賞を取ってもおかしくない、精鋭揃いでした。

その中でもひとときわ感じさせるものがあつた「時間が創り出すもの」。

時間が染み込んだような深みのある茶色……とか、個性を殺さず癖を生かす……など、ため息が出てしまうような表現力です。

同様に「祖父の眠る棺」の文学的かつ詩的な表現力も、抜きん出ていました。

あーちゃんへのストレートな想いをつづる「あーちゃんの桜の木」。

不覚にも泣いてしまいました…… あーちゃんもきつと空から見てくれると思います。

「木の七変化」は読んでいてニマリしてしまう、小学生ならではのセンスあふれる文体。とことん木が活躍します。

たくさんの人が一本の木をリレーして、僕に回って来た「家づくりは木のリレー」。僕はしっかりとリレーを受け止めています。

バイオリンの奥深さがとても伝わって来る「木つてすごいな」。

アイスの棒に感じた疑問から、大きな環境問題につながる「アイスのぼうつてどんな木」。

その他、どの作品にも何かしら、感銘を受けるものがありません。

毎年みなさんの作文には、大人のはずの私が元気をもらっています。

そして「みんなやさしく」の最後の言葉、「友だちにするのと同じように、（木から）やさしくしてもらったら、（木に）やさしくしてあげたいとぼくは思います。」この大切な言葉、私はみなさんに対して、本当にそんな気持ちでいっぱいです。

また素敵な作品と笑顔に出会えることを、楽しみにしています。

南雲国語教室主宰

南雲 ゆりか氏



小学生の今しか書けない、大切な思いの結晶である作文。拝読できる幸せをかみしめながら審査に当たらせていただきました。

「やさしいじいちゃんち」は、日常のひとときを丁寧に描くことで木の家の存在感を見事に表現しました。じいちゃんの腕をまくらに寝転ぶと、「じいちゃんのかた目をちよつとだけあけて、わたしを見て、また目をとじた」と書き出します。一緒に語らいながら「家のやさしさ」に気づいた作者は、じいちゃんをせみとりに誘います。ここで書き終えていることで、せみしぐれに包まれた夏の午後のイメージが心に残ります。じいちゃんと幸せなひとときを過ごす舞台として、どっしりした木の家はぴったりですね。

「僕の周りは素敵な木に溢れている」からは、作者の豊かな語彙力、表現力がうかがわれました。「さながらうつそうとした小さな森のようなのだ」「ムベの実がたわなに実る。ほおぼると」「スイカにかぶりつく」などの「やまと

言葉」を自分の言葉として見事に使いこなしています。考えや意見をうまく言葉にのせた作品でした。

「木の七変化」は、内容のおもしろさに加えて、生き生きとした表現、構成のうまさ、三拍子そろった作品です。薪での風呂沸かしが「兄弟げんかになるほど」人気があるという表現で、弾んだ雰囲気伝わります。おじいちゃんが「なんまいだあ」と念仏を唱えるときは、お風呂の熱さをがまんしている時なのでたぐのをやめる、というくだりで笑ってしまいました。傷つけないように熱さを伝えているんですね。作文の終わりに木の七変化を改めてまとめているのも、考えを伝える上手な書き方です。

他にも、首里城への熱い思い、身近な木製品から考えたこと、木を大切にすること、秀作が並びました。まだまだ感想をお伝えしたいのに残念です。みなさんの作品を通して私も木を想い、豊かな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

国土交通省 住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室長

石井 秀明 氏



力作ぞろいのなか、国土交通大臣賞には、木造の建築を題材とした作品を選定しました。

低学年の部は、「家づくりは木のリレー」です。

まずは描写力に驚かされました。作者が体験した数々の場面の情景が、ありありと目に浮かんできます。そして、上棟式、伐採体験、製材所と、まさに「川上」から「川下」までの木の流れを「リレー」として漏らさず書き尽くしています。

次に表現力です。リレーされる木を「風呂のにおい」をメタファにしつつ、「ぼくの木」と親近感たっぷりに表現します。文末では、作者は設計士になりたいと宣言します。幼少の体験を将来の職業にすること、人々の思いを形に繋げる職能であることにも、「リレー」の視点が入っています。それを、ヒノキ

の机の存在が、バトンとして仲介しているのも秀逸です。

この驚くばかりの文才や感性は、是非、文壇ではなく、宣言どおり設計士として我々の分野で活かして欲しいものです。

次に、高学年の部は、「時が創り出すもの」です。

こちらは、とにかく、大人っぽくて技巧的な文章。

まず、タイトルで期待MAXです。また、文中の「時間が染み込んだような深みのある茶色」「時空旅行をしているような」といった表現に加え、文頭の「照りつける太陽」を文末で「暑さを忘れた気がした」と回収するなど。

さらには、五感をフル活動させた「深みのある茶色」、「木の削りかすの香り」、「木の優しい触り心地」、「大工さんの柔らかな声」といった表現。脱帽です。

テーマは、タイトルにある「時」が人々の思いを伝えていくことに加えて、木にも人間にも個性があるとするダイバーシティ的視点も。テーマも大人顔負けの作品です。

いずれも、木や建築を通して何かを受け継がれていくというテーマの作品を選ぶことになりました。作品の素晴らしさに感動するとともに、木には「時」を刻み込む力があるという、新たな気づきを与えていただいたことに感謝いたします。

独立行政法人 住宅金融支援機構

マンシヨン・まちづくり支援部 技術統括室長

嘉藤 鋭 氏



まわりにある木のことを作文にして、今年も全国から数多くの作品が届きました。応募いただいた皆さま、本当にありがとうございます。皆さまの作品を読んでいると、木のある暮らしの中で体験したこと、感じたことなどへの想いにどんどん引き込ま

れていき、その情景が鮮やかに頭に浮かび、木のあるくらしがとても暖かいものであることを改めて実感することができました。応募いただいた作品は、いずれも力作で素敵な作品ばかりでした。

低学年の部の住宅金融支援機構理事長賞「しゃべる木のおうち」は、しゃべる木のおうちをいきいきと表現しています。おうちから、ばきんばきんと話しかけているような音が聞こえると、木が寂しがっていると思い、優しく会話する光景を見事に描いています。木のおうちは、雨や雷から守ってくれる家族としてこれからも大事にしていきたいと願いながら、寂しがらないようにおしゃべりを沢山しようと木のおうちを親しむ思いが伝わってくる素晴らしい作品です。

高学年の部の住宅金融支援機構理事長賞「神様の木に出会って」は、夫婦大楠の迫力を鮮明に表現しています。家族全員で出かけた時に夫婦大楠と出会い、とても大きく立派である木に深く感動し、空を見上げると光がさし込み、その光が当たった幹の表面の美しさをきめ細かく丁寧に描いています。樹齢900年の木であるため、歴史上の人物もこの木を見ているかもしれないと気持ちが高ぶり、この木に歴史上の出来事を見て知っていることがあつたら聞いてみたい気持ちになる素晴らしい作品です。

作文は、作文用紙を通じて作者の思いが読者に伝わります。作文用紙に書かれた文字二つが作者の思いを届け、大きな感動を与えてくれます。素晴らしい作文を、これからもずっと書き続けてください。そして、素敵な感動をみんなに広く届けることを期待しています。

朝日学生新聞社

取締役営業担当 兼 大阪支社長

今澤 勇氏

とても優れた取材力・観察力・表現力。聞いたこと、調べたこと、感じたこと、さまざまな体験を通じてみなさん多くのことを学びながら、それらを



作品の中にとってもいきいきと表現していました。どの作品も木のある暮らしの中の日常を、みずからの視点で丁寧に切り取った魅力ある作品ばかりでした。

低学年の部の朝日小学生新聞賞「さびしそうな木」は、大雨により近くの川が増水し、河原にも大きな被害が出た様子を見たときの気持ちを素直に表現しています。打ち上げられた大きな木を見て、「かなしい」「何かに使えないだろうか」と思いを巡らし「雨がわたしにも木にもやさしくなればいいと思いました」と自然環境への心配をやさしい表現でまとめてくれました。昨今報道されている台風や大雨による山の土砂崩れや洪水被害など、地球規模の気候問題にもつながっていくテーマ性のある作品でした。

高学年の部の朝日小学生新聞賞「僕の周りは素敵な木に溢れている」は、暑い夏、祖母の家で過ごした時の風景を鋭い観察眼と個性豊かな表現でまとめていました。「小さな森」と呼ぶ多くの木々に囲まれた祖母の家。なぜ、日暮れの家の中はクーラーのない場所でも涼しいのか……。昔の人の生活を想像させ、色々なことを気づかせてくれた木。「僕はぜひ家に木を植えることをお勧めする」との提言にはとても力強さを感じました。

今回の朝日学生新聞社賞の2作品は「大雨で流されて目的を失った悲しい木」と「夏の家の中を涼しくさせる庭のありがたい木」と様々な木の表情を感じ、それぞれ違う角度から「木と暮らす大切さ」に改めて気づかされる作品でした。

受賞されたみなさん、おめでとうございます。応募されたすべてのみなさんに感謝申し上げます。

一般社団法人日本木造住宅産業協会 専務理事

越海 興一氏

今回もたくさんのお応募をいただき有り難うございました。どの作品も身の



回りにある樹木や家、木製品について、また、それらに関わる人々、特に大切な家族について、よく調べ、観察し、取材して、原稿用紙に生き生きと表現し、堂々と意見を述べています。小学生の皆さんが、この作文コンクールを通じてコミュニケーション能力を養い、いずれ立派な社会人となって国内外で活躍する姿を想いつつ楽しくも緊張感を持って審査に臨みました。

さて、その作文コンクールも今年で25回目を迎えました。すなわち、建設省の住宅月間に合わせて、木住協が全国的な認知を目指して「10月18日は木造住宅の日」と定め、同年、小学生を対象に作文コンクールを開始したのが25年前です。初期のテーマ「木の家・こんな家に住みたい」で応募いただいた当時の小学生も今はお父さんお母さんとなって、そのお子様もそろそろ小学生に上がって今回ご応募いただいているのだらうと想像しながら作品を読ませていただき、感慨もひとしおでした。この25年で時代は大きく変わり、単に「木造住宅は木の温もりがあつていいね。家づくりを通して、家族や大工さんとの絆が深まるよね。」との協会の想いを遙かに超えて、昨今「木は地球温暖化防止に役立つ循環型資源」にまでグレードアップされています。そのため、より視野を広げて、21回目からはテーマを「木のある暮らし」に変更し今日に至っています。この時代の潮流に見事に応え、ご応募いただいた作品は、木造住宅に限らず、家具から玩具までの木製品、植林から製材までの林業体験、そしてお庭の植木から街や学校の樹木に至るまで、幅広く題材とし、しかも良く調べて上手に表現されています。なるほど、小学校において環境やSDGsに関する教育が進展していることを実感しました。引き続き、様々な題材で我々審査員を驚かせるような作品の登場を今から楽しみにしております。

最後に、ご後援をいただきました国土交通省、農林水産省、文部科学省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社、ならびに教育委員会はじめ学校関係の方々、本コンクールにご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

プロフィール

■はせがわ ゆうじ イラストレーター

名古屋市生まれ。名古屋芸術大学卒。広告や出版のイラストを幅広く手がける。東京書籍国語教科書表紙、名古屋市母子手帳表紙、NHKみんなのうたアニメーションなど色鉛筆でほのぼのとした優しいタッチのイラストレーションで知られる。最近ではパンダをペン画で描くキャラクターぱんだもんでLINEスタンプ、ポストカード、その他様々なグッズを展開中。著書に「ベンジJamminの空」(サンリオ)他。

■南雲 ゆりか(なぐも ゆりか) 南雲国語教室主宰

東京生まれ。横浜国立大学教育学部卒。横浜市立小学校教諭を経て大手進学塾へ。難関クラス指導と模試・教材の作成を担当した。都内で国語教室を主宰し、「正確に読む力、正確に伝える力」を motto に指導にあたっている。朝日新聞EduA「国語のチカラ」学習の悩みにお答えします」連載中。著書に「名探偵コナンと楽しく学ぶ小学国語ドリル 書く力」、「考える力がつく『国語』勉強法」(ダイヤモンド社)など。

■石井 秀明(いし いひであき)

国土交通省 住宅局住宅生産課 木造住宅振興室長

■嘉藤 鋭(かとう さとし)

独立行政法人 住宅金融支援機構
マンション・まちづくり支援部 技術統括室長

■今澤 勇(いまざわ いさむ)

朝日学生新聞社 取締役営業担当兼大阪支社長

■越海 興一(こしうみ こういち)

一般社団法人日本木造住宅産業協会 専務理事

作文コンクール オンライン表彰式



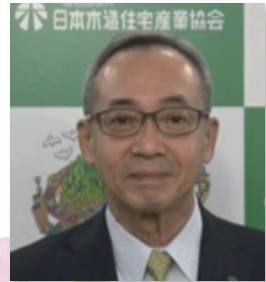
木住協
越海専務理事



はせがわゆうじ
審査員長



国土交通省
山下課長



木住協
市川晃会長



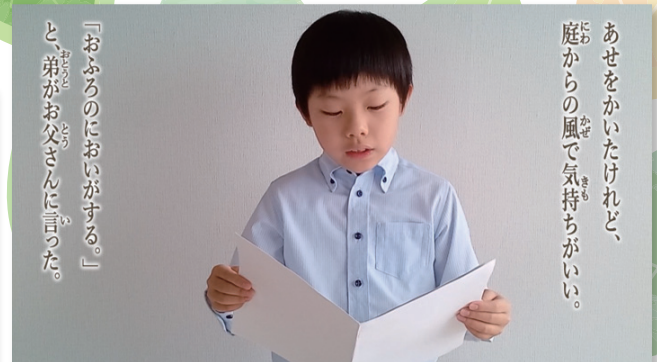
バーチャルスタジオとMC



リモート参加した受賞者の皆さん全員集合 スクリーンショット記念撮影



国土交通大臣賞高学年の部 杉野 愛梨さん
「時が創り出すもの」朗読動画

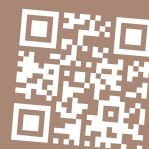


国土交通大臣賞低学年の部 大和田 悠真さん
「家づくりは木のリレー」朗読動画



受賞者インタビューの様子

オンライン表彰式の様子は
協会ホームページから動画でご覧いただけます。
<https://www.mokujukyo.or.jp>





参加学校一覧



茨城県

いわき市立好間第四小学校
二本松市立原瀬小学校
白河市立五箇小学校
福島市立笹谷小学校
福島市立福島第三小学校
桜川市立南飯田小学校
青葉台初等学部
桜川市立大国小学校
筑西市立河間小学校
常総市立玉小学校
石岡市立恋瀬小学校
桜川市立桃山学園
常陸太田市立世矢小学校
高萩市立高萩小学校
筑西市立嘉田生崎小学校
神栖市立波崎西小学校
筑西市立大田小学校
古河市立古河第二小学校
小美玉市立堅倉小学校
水戸市立上中妻小学校
ひたちなか市立那珂湊第一小学校
つくば市立柳橋小学校
水戸市立稲荷第一小学校
結城市立結城小学校
取手市立取手小学校
鉾田市立大洋小学校
日立市立大久保小学校
取手市立桜が丘小学校
古河市立古河第一小学校
つくば国際大学東風小学校
稲敷市立新利根小学校
日立市立久慈小学校
水戸市立河和田小学校
リリーベール小学校
笠間市立みなみ学園義務教育学校
笠間市立大原小学校
桜川市立羽黒小学校
稲敷市立高田小学校
常陸太田市立金砂郷小学校
小美玉市立竹原小学校
小美玉市立小川南小学校
ひたちなか市立勝倉小学校
龍ヶ崎市立馴馬台小学校
神栖市立大野原小学校
常陸大宮市立大宮西小学校
坂東市立弓馬田小学校
八千代町立中結城小学校
石岡市立南小学校
日立市立坂本小学校
筑西市立古里小学校
水戸市立五軒小学校
神栖市立須田小学校

福島市立森合小学校
相馬市立飯豊小学校
福島市立福島第四小学校
本宮市立和田小学校
三春町立中郷小学校
郡山市立芳山小学校
福島市立水保小学校
泉崎村立泉崎第一小学校
棚倉町立近津小学校
二本松市立旭小学校
本宮市立糠沢小学校
福島市立金谷川小学校
桜の聖母学院小学校
会津若松市立一箕小学校
会津若松市立東山小学校
福島市立瀬上小学校
磐梯町立磐梯第一小学校
福島市立庭坂小学校
会津坂下町立坂下東小学校
白河市立関閤小学校
西郷村立熊倉小学校
相馬市立大野小学校
白河市立表郷小学校
いわき市立錦東小学校
会津若松市立城南小学校
いわき市立川部小学校
伊達市立月館学園小学校
郡山市立守山小学校
いわき市立汐見が丘小学校
会津美里町立高田小学校
いわき市立植田小学校
二本松市立二本松北小学校
須賀川市立第一小学校
いわき市立平第二小学校
本宮市立岩根小学校
郡山市立西田学園
三春町立三春小学校
西郷村立小田倉小学校
須賀川市立義務教育学校稲田学園
福島市立佐倉小学校
福島市立松川小学校
猪苗代町立猪苗代小学校
田村市立常葉小学校
中島村立滑津小学校
本宮市立本宮まゆみ小学校
西郷村立川谷小学校
会津美里町立新鶴小学校
泉崎村立泉崎第二小学校
会津若松市立河東学園
矢吹町立矢吹小学校
矢吹町立善郷小学校
いわき市立平第六小学校

北海道

恵庭市立恵み野小学校
札幌市立北郷小学校
石狩市立厚田学園
江別市立対雁小学校
札幌市立札幌小学校
足寄町立大誉地小学校
札幌市立平岡公園小学校
釧路市立中央小学校
札幌市立平岡中央小学校
森町立森小学校
旭川市立旭川第五小学校
苫小牧市立清水小学校
苫小牧市立明野小学校
釧路市立朝陽小学校
札幌市立福井野小学校
札幌市立円山小学校

青森県

八戸市立種差小学校
新郷村立新郷小学校
今別町立今別小学校
弘前市立北小学校

宮城県

大崎市立沼部小学校
大崎市立鳴子小学校
富谷市立成田東小学校
聖ドミニコ学院小学校
仙台市立片平丁小学校
仙台市立将監小学校
大河原町立金ヶ瀬小学校
仙台市立国見小学校
仙台市立鹿野小学校
仙台市立八木山南小学校
涌谷町立月将館小学校
石巻市立向陽小学校
多賀城市立多賀城八幡小学校

秋田県

能代市立第四小学校
横手市立栄小学校

山形県

山形市立東小学校
山形市立村木沢小学校
天童市立干布小学校
山形市立高瀬小学校
山形市立千歳小学校
東根市立神町小学校
東根市立東根中部小学校
東根市立東根小学校
山形市立第二小学校
塙町立笹原小学校
矢祭町立矢祭小学校
会津若松市立城西小学校
福島市立大森小学校
郡山市立高倉小学校
三島町立三島小学校

福島県

幸手市立さくら小学校
伊奈町立小室小学校
川越市立月越小学校
鶴ヶ島市立長久保小学校
行田市立泉小学校
八潮市立大瀬小学校
所沢市立牛沼小学校
草加市立八幡北小学校
川越市立山田小学校
久喜市立栗橋小学校
鶴ヶ島市立新町小学校
白岡市立白岡東小学校
所沢市立林小学校
川口市立十二月田小学校
朝霞市立朝霞第六小学校
草加市立青柳小学校
久喜市立桜田小学校
川口市立慈林小学校
熊谷市立長井小学校
幸手市立上高野小学校
川口市立上青木小学校
さいたま市立蓮沼小学校
春日部市立牛島小学校
三郷市立丹後小学校
幸手市立行幸小学校
さいたま市立指扇北小学校
所沢市立北秋津小学校
鴻巣市立吹上小学校
越谷市立大間野小学校
志木市立宗岡第三小学校
伊奈町立小針北小学校
入間市立宮寺小学校
さいたま市立常盤小学校
千葉県
千葉市立千城台東小学校
千葉市立稲浜小学校
千葉市立仁戸名小学校
習志野市立大久保小学校
千葉市立稲丘小学校
木更津市立真舟小学校
我孫子市立我孫子第四小学校
千葉市立あすみが丘小学校
千葉市立稲毛第二小学校
千葉市立鶴沢小学校
千葉市立土気小学校
千葉市立有吉小学校
千葉市立真砂西小学校
千葉市立都賀小学校
千葉市立磯辺小学校
富里市立富里南小学校
千葉市立誉田東小学校
千葉市立寒川小学校
千葉市立小倉小学校
柏市立高柳小学校
印西市立小倉台小学校
流山市立向小金小学校
千葉市立上の台小学校
船橋市立薬円台小学校
千葉市立川戸小学校

太田市立宝泉東小学校
太田市立宝泉小学校
みどり市立笠懸北小学校
太田市立駒形小学校
明和町立明和西小学校
太田市立毛里田小学校
榛東村立南小学校
前橋市立永明小学校
太田市立南小学校
前橋市立原小学校
富岡市立小野小学校
安中市立原市小学校
フェリーチェ玉村国際小学校
みどり市立笠懸東小学校
みどり市立笠懸小学校
藤岡市立美九里西小学校
大泉町立西小学校
前橋市立柏川小学校
安中市立安中小学校
渋川市立渋川西小学校
榛東村立北小学校
前橋市立宮城小学校
埼玉県
さいたま市立大砂土東小学校
さいたま市立見沼小学校
さいたま市立鈴谷小学校
鶴ヶ島市立栄小学校
春日部市立豊春小学校
横瀬町立横瀬小学校
さいたま市立北浦和小学校
川越市立川越西小学校
新座市立片山小学校
入間市立西武小学校
長瀨町立長瀨第一小学校
越谷市立明正小学校
さいたま市立大久保小学校
戸田市立新曽小学校
越谷市立蒲生小学校
三郷市立新和小学校
杉戸町立高野台小学校
越生町立越生小学校
深谷市立深谷西小学校
ときがわ町立玉川小学校
深谷市立榛沢小学校
川口市立本町小学校
白岡市立篠津小学校
さいたま市立徳力小学校
飯能市立加治東小学校
久喜市立砂原小学校
春日部市立正善小学校
杉戸町立西小学校
鴻巣市立田間宮小学校
草加市立八幡小学校
深谷市立花園小学校
さいたま市立辻小学校
さいたま市立大砂土小学校
和光市立北原小学校
草加市立新田小学校
三郷市立早稲田小学校

水戸市立浜田小学校
筑西市立伊讀小学校
守谷市立守谷小学校
龍ヶ崎市立八原小学校
常総市立飯沼小学校
ひたちなか市立堀口小学校
土浦市立真鍋小学校
常陸太田市立太田小学校
土浦市立都和小学校
つくば市立学園の森義務教育学校
つくば市立春日学園義務教育学校
つくば市立沼崎小学校
つくばみらい市立小絹小学校
栃木県
宇都宮市立田原小学校
鹿沼市立南押原小学校
鹿沼市立清洲第一小学校
宇都宮市立石井小学校
鹿沼市立菊沢東小学校
日光市立落合東小学校
宇都宮市立岡本北小学校
宇都宮市立西原小学校
那須町立黒田原小学校
市貝町立市貝小学校
宇都宮市立白沢小学校
宇都宮市立上戸祭小学校
大田原市立石上小学校
宇都宮市立清原東小学校
日光市立今市小学校
日光市立日光小学校
宇都宮市立東小学校
小山市立小山城南小学校
群馬県
太田市立沢野小学校
邑楽町立長柄小学校
太田市立城西小学校
安中市立秋間小学校
吉岡町立駒寄小学校
高崎市立塚沢小学校
高崎市立堤ヶ岡小学校
伊勢崎市立南小学校
高崎市立新高尾小学校
玉村町立芝根小学校
高崎市立箕輪小学校
富岡市立額部小学校
高崎市立佐野小学校
安中市立西横野小学校
沼田市立沼田小学校
高崎市立鼻高小学校
高崎市立寺尾小学校
甘楽町立福島小学校
東吾妻町立原町小学校
吉岡町立明治小学校
前橋市立大胡東小学校
甘楽町立新屋小学校
前橋市立元総社南小学校
前橋市立城東小学校
安中市立後閑小学校
前橋市立桃瀬小学校
高崎市立東部小学校

川崎市立大戸小学校
湯河原町立湯河原小学校
横浜市立文庫小学校
平塚市立八幡小学校
相模原市立内郷小学校
逗子市立逗子小学校
横浜市立権太坂小学校
藤沢市立辻堂小学校
大和市立林間小学校
横浜市立新鶴見小学校
相模原市立谷口台小学校
横浜市立上瀬谷小学校
横浜市立師岡小学校
横浜市立朝比奈小学校
厚木市立小鮎小学校
横浜市立上大岡小学校
平塚市立大原小学校
横浜市立洋光台第一小学校
川崎市立大谷戸小学校
逗子市立池子小学校
横浜市立今宿南小学校
平塚市立山下小学校
南足柄市立福沢小学校
横浜市立山下小学校
川崎市立千代ヶ丘小学校
横浜市立青木小学校
横浜市立もえぎ野小学校
横浜市立義務教育学校西金沢学園小学部
川崎市立百合丘小学校
横浜市立屏風浦小学校
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校
逗子市立沼間小学校
川崎市立小田小学校
横浜市立杉田小学校
横浜市立桜台小学校
平塚市立豊田小学校
横浜市立桂小学校
横浜市立今宿小学校
川崎市立中原小学校
横浜市立平戸小学校
川崎市立久本小学校
秦野市立本町小学校

新潟県

長岡市立岡南小学校
三条市立森町小学校
新潟市立日和山小学校
長岡市立深沢小学校
糸魚川市立南能生小学校
佐渡市立小木小学校
新潟大学教育学部附属新潟小学校
上越市立直江津小学校

富山県

富山市立新保小学校
富山市立船嶺小学校
入善町立上青小学校
黒部市立宇奈月小学校

石川県

小松市立串小学校

福井県

坂井市立兵庫小学校
坂井市立春江小学校
坂井市立長畝小学校

千葉市立おゆみ野南小学校
佐倉市立井野小学校
暁星国際流山小学校
八千代市立南高津小学校
八千代市立阿蘇米本学園
鎌ヶ谷市立初富小学校
鎌ヶ谷市立五本松小学校
市原市立五井小学校
佐倉市立青菅小学校
千葉市立海浜打瀬小学校
我孫子市立我孫子第三小学校
流山市立おおぐろの森小学校
市川市立信篤小学校
市川市立北方小学校
足立区立西新井小学校
江東区立浅間堅川小学校
府中市立南町小学校
板橋区立板橋第一小学校
北区立岩淵小学校
板橋区立向原小学校
渋谷区立加計塚小学校
多摩市立多摩第二小学校
江東区立毛利小学校
府中市立府中第十小学校
小金井市立南小学校
八王子市立高倉小学校
江東区立枝川小学校
世田谷区立用賀小学校
練馬区立光が丘夏の雲小学校
青ヶ島村立青ヶ島小学校
日野市立潤徳小学校
東京創価小学校
武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七

中野区立桃花小学校
府中市立府中第三小学校
豊島区立さくら小学校
練馬区立豊玉小学校
サレジオ小学校
世田谷区立深沢小学校
府中市立府中第九小学校
世田谷区立松丘小学校
中野区立南台小学校
日野市立日野第五小学校
江戸川区立葛西小学校
プリティッシュスクールイン東京（ＢＳＴ）
お茶の水女子大学附属小学校
世田谷区立烏山小学校
目黒区立不動小学校
千代田区立富士見小学校
渋谷区立西原小学校
練馬区立高松小学校
横浜市立小机小学校
横浜市立元街小学校
川崎市立東高津小学校
横浜市立南山田小学校
横浜市立奈良小学校
横浜市立港北小学校

東京都

神奈川県

習志野市立谷津南小学校
千葉市立さつきが丘西小学校
千葉市立犢橋小学校
柏市立高柳西小学校
千葉市立花園小学校
千葉市立小中台小学校
野田市立山崎小学校
柏市立酒井根小学校
佐倉市立上志津小学校
千葉市立生浜西小学校
千葉市立美浜打瀬小学校
佐倉市立寺崎小学校
千葉市立都賀の台小学校
東金市立錫嶺小学校
国府台女子学院小学部
神崎町立神崎小学校
酒々井町立大室台小学校
成田市立公津の杜小学校
成田市立平成小学校
大網白里市立大網東小学校
東金市立城西小学校
いすみ市立夷隅小学校
市原市立国分寺台西小学校
いすみ市立東海小学校
浦安市立日の出小学校
浦安市立東小学校
野田市立中央小学校
佐倉市立下志津小学校
習志野市立東習志野小学校
香取市立小見川東小学校
四街道市立八木原小学校
千葉市立幸町小学校
習志野市立津田沼小学校
習志野市立大久保東小学校
いすみ市立太東小学校
市原市立白金小学校
習志野市立夷初小学校
船橋市立金杉台小学校
柏市立大津ヶ丘第二小学校
習志野市立香澄小学校
柏市立柏第六小学校
柏市立柏第五小学校
千葉市立宮野木小学校
千葉市立作新小学校
栄町立竜角寺台小学校
千葉市立蘇我小学校
柏市立柏第七小学校
いすみ市立東小学校
勝浦市立勝浦小学校
千葉市立源小学校
九十九里町立豊海小学校
市川市立平田小学校
柏市立柏第三小学校
松戸市立稔台小学校
野田市立川間小学校
船橋市立高根台第三小学校
八千代市立勝田台小学校
習志野市立実花小学校

草津市立志津小学校
草津市立草津小学校
野洲市立野洲小学校
高島市立新旭南小学校
豊郷町立豊郷小学校
野洲市立中主小学校
大津市立比叡平小学校
彦根市立城北小学校
彦根市立佐和山小学校
彦根市立若葉小学校
彦根市立河瀬小学校
彦根市立稻枝東小学校
栗東市立葉山東小学校
長浜市立速水小学校
湖南市立菩提寺小学校
甲賀市立貴生川小学校
守山市立物部小学校
長浜市立古保利小学校
大津市立藤尾小学校
大津市立逢坂小学校
長浜市立南郷里小学校
大津市立長等小学校
湖南市立石部小学校
草津市立矢倉小学校
湖南市立菩提寺北小学校
大津市立坂本小学校
甲賀市立土山小学校
草津市立笠縫小学校
湖南市立三雲小学校
東近江市立山上小学校
大津市立瀬田北小学校
長浜市立高月小学校
甲賀市立佐山小学校
近江八幡市立安土小学校
甲賀市立大原小学校
長浜市立長浜小学校
東近江市立布引小学校
甲賀市立水口小学校
守山市立玉津小学校
多賀町立多賀小学校
高島市立朽木西小学校
東近江市立八日市北小学校
京都市立東山泉中学校
京都市立太秦小学校
京都市立上高野小学校
京都市立朱雀第四小学校
京都市立神川小学校
ノートルダム学院小学校
八幡市立南山小学校
京都市立明德小学校
大阪市立清水丘小学校
大阪狭山市立第七小学校
吹田市立西山田小学校
堺市立さつき野小学校
東大阪市立高井田西小学校
八尾市立上之島小学校
大阪市立大江小学校
大阪市立小松小学校

京都府

大阪府

浜松市立伊佐見小学校
静岡市立清沢小学校
静岡市立清水小島小学校
静岡市立清水不二見小学校
森町立飯田小学校
静岡市立西奈小学校
静岡サレジオ小学校
静岡市立葵小学校
島田市立六合東小学校
静岡市立伝馬町小学校
静岡市立清水飯田小学校
浜松市立大平台小学校
磐田市立長野小学校
焼津市立和田小学校
静岡市立清水有度第二小学校
浜松市立赤佐小学校
静岡市立城北小学校
磐田市立豊田北部小学校
浜松市立豊岡小学校
焼津市立焼津東小学校
磐田市立豊田南小学校
島田市立神座小学校
富士宮市立富士根南小学校
静岡市立大谷小学校
浜松市立曳馬小学校
磐田市立磐田西小学校
瀬戸市立萩山小学校
新城市立鳳来中部小学校
蒲郡市立塩津小学校
蒲郡市立中央小学校
岡崎市立梅園小学校
蒲郡市立三谷東小学校
日進市立赤池小学校
蒲郡市立蒲郡東部小学校
蒲郡市立形原北小学校
豊橋市立岩田小学校
岡崎市立岩津小学校
豊川市立天王小学校
蒲郡市立三谷小学校
名古屋市立穂波小学校
豊川市立千両小学校
名古屋市立昭和橋小学校
名古屋市立八事東小学校
大府市立石ヶ瀬小学校
名古屋市立戸笠小学校
名張市立薦原小学校
鳥羽市立加茂小学校
松阪市立鵜小学校
多気町立勢和小学校
名張市立つつじが丘小学校
津市立香良洲小学校
鈴鹿市立神戸小学校
草津市立常盤小学校
東近江市立箕作小学校
甲賀市立伴谷東小学校
草津市立沢川小学校
草津市立玉川小学校
東近江市立能登川東小学校

愛知県

三重県

滋賀県

大野市有終東小学校
永平寺町立御陵小学校
福井市足羽小学校
福井市円山小学校
福井市殿下小学校
鯖江市立河和田小学校
福井市立東藤島小学校
越前市神山小学校
福井市松本小学校
福井市中藤小学校
福井市木田小学校
福井市安居小学校
福井市宝永小学校
大野市立下庄小学校
甲府市立千塚小学校
駿台甲府小学校
小川村立小川小学校
安曇野市立穂高南小学校
下諏訪町立下諏訪南小学校
諏訪市立上諏訪小学校
上田市立神科小学校
長野市立昭和小学校
長野市立豊野西小学校
岡谷市立神明小学校
飯田市立千代小学校
岡谷市立長地小学校
中野市立中野小学校
小布施町立栗方丘小学校
諏訪市立中洲小学校
長野市立篠ノ井西小学校
青木村立青木小学校
東御市立祢津小学校
中野市立高丘小学校
長野市立綿内小学校
千曲市立東小学校
飯田市立座光寺小学校
岡谷市立小井川小学校
千曲市立埴生小学校
須坂市立森上小学校
伊那市立伊那西小学校
中津川市立福岡小学校
海津市立下多度小学校
下呂市立尾崎小学校
本巣市立真桑小学校
岐阜市立市橋小学校
岐阜市立長良東小学校
揖斐川町立揖斐小学校
岐南町立西小学校
八百津町立八百津小学校
高山市立北小学校
川辺町立川辺西小学校
静岡市立清水小河内小学校
静岡市立蒲原西小学校
焼津市立焼津南小学校
静岡市立清水庵原小学校
常葉大学教育学部附属橋小学校
熱海市立第一小学校
静岡市立清水三保第一小学校

山梨県

長野県

岐阜県

静岡県



岡山市立箕島小学校
新見市立高尾小学校
岡山市立三門小学校
岡山市立江西小学校
倉敷市立第二福田小学校
倉敷市立中洲小学校
倉敷市立長尾小学校
倉敷市立本荘小学校
倉敷市立児島小学校
総社市立池田小学校
岡山市立第一藤田小学校
岡山市立西大寺南小学校
岡山市立伊島小学校
岡山市立芳明小学校
玉野市立八浜小学校
倉敷市立連島北小学校
岡山市立旭操小学校
倉敷市立連島東小学校
岡山市立政田小学校
早島町立早島小学校
廿日市市立宮島小学校
広島市立可部小学校
広島市立牛田小学校
庄原市立東城小学校
福山市立水呑小学校
東広島市立御園宇小学校

広島県

周南市立戸田小学校
平生町立平生小学校
三好市立東祖谷小学校
吉野川市立森山小学校
徳島文理小学校
小松島市立立江小学校
美馬市立岩倉小学校
徳島市川内北小学校
徳島市国府小学校
徳島市佐古小学校
徳島市内町小学校
石井町立高原小学校
鳴門市立津西小学校
吉野川市立高越小学校
鳴門市第一小学校
美馬市立三島小学校
三好市立山城小学校
三好市立芝生小学校
藍住町立藍住東小学校
美馬市立穴吹小学校

香川県

さぬき市立志度小学校
丸亀市立城坤小学校
高松市立新番丁小学校
坂出市立林田小学校

愛媛県

今治市立常盤小学校
今治市立鳥生小学校
大洲市立栗津小学校
大洲市立平小学校
上島町立岩城小学校

高知県

大豊町立大豊学園
高知市立義務教育学校土佐山学舎

福岡県

春日市立日の出小学校

神戸市立西須磨小学校
明石市立魚住小学校
神河町立神崎小学校
姫路市立広畑第二小学校
高砂市立高砂小学校
姫路市立荒川小学校
西宮市立東山台小学校
尼崎市立立花西小学校
市川町立瀬加小学校
太子町立斑鳩小学校
高砂市立米田西小学校

奈良県

奈良市立柳生小学校
奈良市立大安寺西小学校
近畿大学附属小学校
橿原市立畝傍東小学校
葛城市立新庄小学校
野迫川村立野迫川中学校
奈良市立六条小学校
奈良市立青和小学校
御所市立掖上小学
大和高田市立高田小学校
大和高田市立磐園小学校
大和高田市立浮孔西小学校
橿原市立耳成西小学校
生駒市立生駒南第二小学校
奈良市立椿井小学校
奈良市立西大寺北小学校
広陵町立真美ヶ丘第二小学校
天川村立天川中学校
古座川町立三尾川小学校
橋本市立西部小学校
紀の川市立西貴志小学校
橋本市立清水小学校
智辯学園和歌山小学校
和歌山市立宮前小学校
和歌山市立岡崎小学校
田辺市立三里小学校
海南市立大東小学校
和歌山市立中之島小学校
鳥取市立浜坂小学校
米子市立住吉小学校
琴浦町立聖郷小学校
飯南町立来島小学校

和歌山県

岡山市立牧石小学校
倉敷市立中島小学校
倉敷市立乙島東小学校
岡山市立幡多小学校
倉敷市立上成小学校
倉敷市立玉島南小学校
岡山市立第二藤田小学校
倉敷市立連島西浦小学校
倉敷市立連島南小学校
倉敷市立味野小学校
倉敷市立緑丘小学校
倉敷市立琴浦東小学校
倉敷市立中庄小学校
岡山市立操明小学校
倉敷市立第五福田小学校

鳥取県

岡山県

熊取町立中央小学校
大阪市立長居小学校
大阪市立本田小学校
大阪市立阿倍野小学校
大阪市立浪速小学校
茨木市立西小学校
豊中市立東豊中小学校
大阪市立清水小学校
大阪市立西天満小学校
大阪市立玉造小学校
大阪市立清江小学校
富田林市立喜志小学校
吹田市立吹田第六小学校
八尾市立八尾小学校
大阪市立荻田小学校
大阪市立築港小学校
大阪市立住之江小学校
大阪市立安立小学校
堺市立竹城台東小学校
堺市立英彰小学校
大阪市立南住吉小学校
大阪市立磯路小学校
吹田市立豊津第二小学校
神戸市立山田小学校
姫路市立八幡小学校
姫路市立東小学校
姫路市立城陽小学校
明石市立山手小学校
姫路市立大津小学校
西宮市立春風小学校
加古川市立野口南小学校
加古川市立水丘小学校
神戸市立六甲アイランド小学校
猪名川町立白金小学校
神戸市立こうべ小学校
姫路市立香呂小学校
小野市立河合小学校
高砂市立荒井小学校
太子町立太田小学校
神戸市立つつじが丘小学校
姫路市立伊勢小学校
神戸市立御影北小学校
神戸市立小部小学校
加古川市立東神吉南小学校
伊丹市立花里小学校
姫路市立城乾小学校
伊丹市立摂陽小学校
姫路市立曾左小学校
明石市立花園小学校
播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校
加古川市立平岡小学校
神戸市立藤原小学校
加古川市立野口小学校
神戸市立中央小学校
神戸市立小寺小学校
太子町立龍田小学校
姫路市立手柄小学校
姫路市立糸引小学校

兵庫県

さつま町立盈進小学校
霧島市立宮内小学校
阿久根市立折多小学校
霧島市立高千穂小学校
霧島市立小野小学校
鹿児島市立瀬々串小学校
鹿児島市立桜丘西小学校
鹿児島市立松元小学校
志布志市立志布志小学校
曽於市立深川小学校
鹿児島市立宮川小学校
屋久島町立宮浦小学校
薩摩川内市立入来小学校
指宿市立山川小学校
曽於市立月野小学校
南九州市立別府小学校
鹿児島市立大明丘小学校
枕崎市立別府小学校
湧水町立栗野小学校
南さつま市立阿多小学校
始良市立加治木小学校
東串良町立池之原小学校
鹿児島市立原良小学校
鹿児島市立中山小学校
鹿児島市立喜入小学校
垂水市立松ヶ崎小学校
鹿児島市立吉野東小学校
鹿児島市立桜洲小学校
屋久島町立金岳小学校
鹿児島市立西紫原小学校
日置市立飯牟礼小学校
名護市立久辺小学校
豊見城市立座安小学校
国頭村立奥間小学校
沖縄市立美東小学校
名護市立屋部小学校

沖縄県

神奈川県

鳥取県

福岡県

海外

中華人民共和国

蘇州日本人学校

エジプト・アラブ共和国

カイロ日本人学校

ドイツ連邦共和国

共益法人フランクフルト日本人国際学校

インドネシア共和国

スラバヤ日本人学校

マレーシア在マレーシア日本国大使館附属

クアラルンプール日本人会日本人小学校

佐世保市立港小学校
雲仙市立土黒小学校
佐世保市立皆瀬小学校
佐世保市立大塔小学校
長崎南山小学校
五島市立崎山小学校
対馬市立乙宮小学校
島原市立第三小学校
長崎市立橋小学校
長崎市立城山小学校
杵岐市立鯨伏小学校
雲仙市立大塚小学校
諫早市立御館山小学校
長崎市立古賀小学校
ながさき東そのぎ子どもの村小学校

熊本県

大村市立大村小学校
諫早市立真津山小学校
大村市立西大村小学校
長崎市立小江原小学校
諫早市立喜々津東小学校
大村市立放虎原小学校
菊池市立泗水東小学校
熊本市立高平台小学校
天草市立本渡南小学校
南阿蘇村立白水小学校
宇土市立花園小学校
山鹿市立八幡小学校
山都町立矢部小学校
天草市立新和小学校
天草市立楠浦小学校

大分県

由布市立塚原小学校
佐伯市立宇目緑豊小学校
大分市立判田小学校
豊後大野市立犬飼小学校
諸塚村立荒谷小学校
延岡市立浦城小学校
延岡市立北方学園小学校
五ヶ瀬町立鞍岡小学校
新富町立上新田小学校
椎葉村立不土野小学校

宮崎県

霧島市立中福良小学校
鹿児島市立紫原小学校
鹿児島市立福平小学校
鹿児島市立吉野小学校
三島村立三島硫黄島学園
鹿児島市立名山小学校
曽於市立岩川小学校
志布志市立香月小学校
鹿児島市立東谷山小学校
鹿児島市立武小学校
鹿児島市立草牟田小学校
鹿児島市立西伊敷小学校
志布志市立有明小学校
始良市立重富小学校
鹿児島市立谷山小学校
神村学園初等部
屋久島町立安房小学校
始良市立始良小学校

鹿児島県

志免町立志免中央小学校
北九州市立曾根東小学校
筑紫野市立天拝小学校
古賀市立千鳥小学校
宗像市立赤間小学校
福岡市立賀茂小学校
春日市立春日西小学校
大野城市立大利小学校
筑紫野市立阿志岐小学校
太宰府市立太宰府西小学校
春日市立春日南小学校
久山町立山田小学校
粕屋町立仲原小学校
嘉麻市立熊ヶ畑小学校
大野城市立大野東小学校
太宰府市立太宰府東小学校
大野城市立大野北小学校
糸島市立南風小学校
北九州市立曾根小学校
新宮町立立花小学校
みやこ町立黒田小学校
大野城市立大野南小学校
飯塚市立椋本小学校
北九州市立星ヶ丘小学校
大野城市立大野小学校
北九州市立大里柳小学校
筑紫野市立筑紫東小学校
春日市立春日北小学校
福岡市立東花畑小学校
春日市立須玖小学校
宇美町立井野小学校
粕屋町立粕屋中央小学校
直方市立植木小学校
春日市立春日東小学校
大野城市立下大利小学校
北九州市立松ヶ江南小学校
宗像市立日の里東小学校
福岡市立名島小学校
福岡市立香陵小学校
福岡市立香椎小学校
福岡市立西高宮小学校
福岡市立若宮小学校
行橋市立稗田小学校
北九州市立医生丘小学校
上峰町立上峰小学校

佐賀県

嬉野市立轟小学校
嬉野市立五町田小学校
嬉野市立大草野小学校
嬉野市立吉田小学校
鳥栖市立鳥栖小学校
佐賀市立諸富北小学校
佐賀市立西川副小学校
伊万里市立山代東小学校
鹿島市立明倫小学校
嬉野市立久間小学校
伊万里市立東山代小学校
諫早市立北諫早小学校
諫早市立小野小学校

長崎県

団体応募校を中心に掲載しています。
学校名については厳正に確認しておりますが、
万一間違いがあった場合はご容赦ください。

<https://www.mokujukyo.or.jp>

木住協

検索



Cyujix



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階

電話 **03-5114-3010**(代) FAX 03-5114-3020

第25回「木のある暮らし」作文コンクール 入選作品集 ●2022年12月 ●編集・発行／一般社団法人 日本木造住宅産業協会 業務・広報部